

三重大学

学生総合支援機構

Mie University Organization for Student Affairs

2023年度
報告書



目次

I 学生総合支援機構

・ 組織図	01
・ 学生総合支援機構運営会議 委員名簿	02
・ 学生委員会 委員名簿	03

II 修学支援センター

・ 活動報告	04
・ 奨学生数	06
・ 外国人留学生数（学部・研究科等別）	07
・ 国籍別外国人留学生数	08
・ 入学料免除者数	09
・ 授業料免除者数	10
・ 学生寄宿舎入寮許可状況	11
・ 学生保険の加入について	12

III キャリアセンター

・ 活動報告	14
・ 就職状況について	19

IV 学生活動センター

・ 活動報告	21
・ クラブ・サークル一覧（体育系・文化系）	22

V 学生相談センター

・ 活動報告	24
--------------	----

VI 障害学生支援センター

・ 活動報告	32
--------------	----

VII SA（スチューデント・アシスタント）

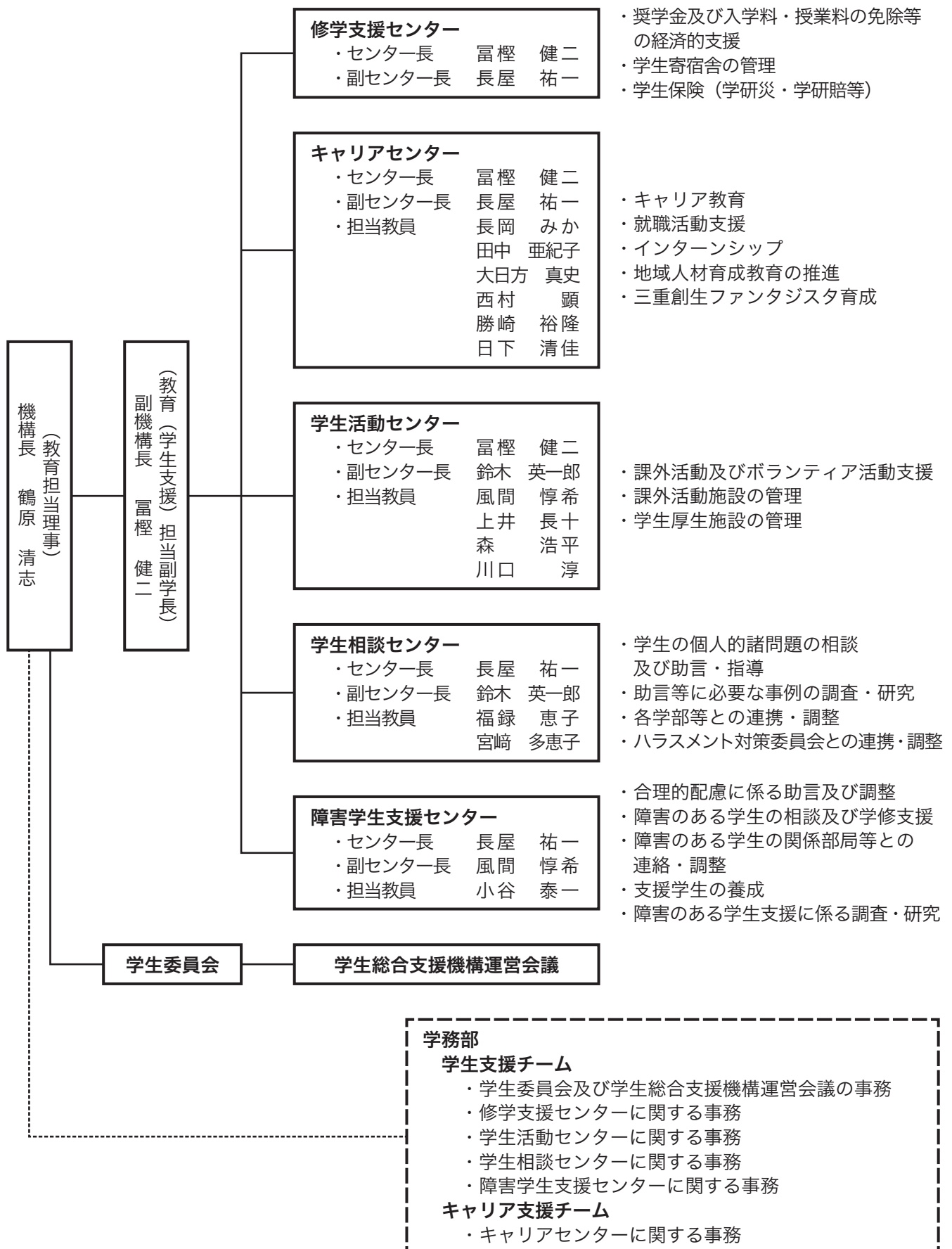
・ 取り組みを振り返って	34
・ キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド	35

VIII 学生総合支援機構主催行事

・ 学生支援サミット 2023	37
-----------------------	----

I 学生総合支援機構

令和5年度 学生総合支援機構 組織図



令和5年度 学生総合支援機構運営会議 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援機構長	鶴原 清志	議長 教育担当理事
	学生総合支援機構副機構長 修学支援センター長 キャリアセンター長 学生活動センター長 学生相談センター長	富樫 健二	教育（学生支援）担当副学長
	障害学生支援センター長 修学支援センター副センター長 キャリアセンター副センター長	長屋 祐一	学生総合支援担当学長補佐
	学生活動センター副センター長 学生相談センター副センター長	鈴木 英一郎	
	障害学生支援センター副センター長 学生活動センター	風間 惇希	
	キャリアセンター	長岡 みか	
	キャリアセンター	田中 亜紀子	人文学部
	キャリアセンター	大日方 真史	教育学部
	キャリアセンター	西村 顕	工学部
	キャリアセンター	勝崎 裕隆	生物資源学部
	学生活動センター	上井 長十	人文学部
	学生活動センター	森 浩平	教育学部
	学生活動センター	川口 淳	工学部
	学生相談センター	福録 恵子	医学部
	学生相談センター	宮崎 多恵子	生物資源学部
	障害学生支援センター	小谷 泰一	医学部
	学務部長	森本 修一	
陪席	学生支援課長	大幡 奈津	
	学生支援チーム副課長	伊藤 仁江	
	キャリア支援課長	松原 行志	

令和5年度 学生委員会 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援機構長	鶴原 清志	議長 教育担当理事
	学生総合支援機構副機構長 修学支援センター長 キャリアセンター長 学生活動センター長	富樫 健二	教育（学生支援）担当副学長
	人文学部副学部長	豊福 裕二	
	教育学部副学部長	宮岡 邦任	
	医学系研究科副研究科長	成田 正明	
	工学研究科副研究科長	池浦 良淳	
	生物資源学研究科副研究科長	神原 淳	
	地域イノベーション学研究科副研究科長	青木 雅生	
	学生相談センター長 障害学生支援センター長 修学支援センター副センター長 キャリアセンター副センター長	長屋 祐一	学生総合支援担当学長補佐
	学生活動センター副センター長 学生相談センター副センター長	鈴木 英一郎	
	保健管理センター所長	小林 由直	保健管理担当学長補佐
	国際交流センター長	金子 聡	
	人文学部学生支援委員会委員長	古瀬 啓之	
	教育学部選出委員	瀬戸 美奈子	
	医学部学生委員会委員長	小谷 泰一	
	工学部学生委員会委員長	高木 一義	
	生物資源学部学生委員会委員長	名田 和義	
	学務部長	森本 修一	
陪席	学生支援課長	大幡 奈津	
	学生支援チーム副課長	伊藤 仁江	
	キャリア支援課長	松原 行志	

Ⅱ 修学支援センター

令和 5 年度 活動報告

1 家計急変世帯への緊急支援措置制度による授業料免除の実施

新型コロナウイルス感染症による影響で、家計が急変し授業料の納付が困難となった世帯の学生に対して、緊急支援措置として、令和 5 年度の授業料免除支援を実施した。前期は全額免除者 2 名、半額免除者 1 名、後期は全額免除者 1 名であった。

2 学業成績等優秀学生の授業料免除制度について

令和 4 年度より制定された「三重大学学業成績等優秀学生の授業料免除制度に関する規程」について、各研究科の修士課程・博士前期課程・専門職学位課程に在籍する学業成績等が優秀な学生に対し、授業料免除を行った。

3 家計急変による給付奨学金及び貸与奨学金（日本学生支援機構）への対応

家計急変の事由が生じた学生に対し、年間を通じて相談受付及び申請受付を行った。

令和 5 年度は、家計急変採用（給付型奨学金）及び緊急・応急採用（貸与型奨学金）について 3 名からの申請があり、うち 2 名が採用された。

4 三重大学入学特別奨学金制度について

三重大学入学料免除及び徴収猶予取扱規程に基づく入学料免除を申請した者のうち、入学料免除の選考基準相応の免除を受けることができなかった学生を対象に、「三重大学修学支援事業基金」から一人当たり 5 万円を支給する事業を実施した。

令和 5 年度については、前年度と同人数の 15 名に支援を実施した。

5 英語能力試験にかかる支援費補助事業について

経済的に修学困難な学生に対し、英語能力試験（TOEIC）を受験した場合に支援費及び教材費として「三重大学修学支援事業基金」から一人あたり 1 万円を支給する事業を新たに開始した。

令和 5 年度は、2 回の募集期間を設け、合計 132 名からの申請があり、支援対象となる 116 名に支援費を支給した。

6 三重大学生浦マリ子奨学金について

日本学生支援機構給付奨学金を利用していない学生を対象とし、「三重大学振興基金」から 1 人当たり年額 30 万円を支給する本学独自の給付型奨学金「三重大学生浦マリ子奨学金」を設立した。令和 5 年度は基本枠として 3 名の学生を採用した。

7 学生寄宿舍の改善及び備品

男子学生寄宿舍	補食室の清掃 8 室 352 千円
	ベッドのマットレスの取替 20 枚 399 千円
	電子レンジの取替 8 台 353 千円
	オーブントースターの取替 8 台 57 千円
	3・4 階便所大便器用低圧フラッシュバルブ改修工事 294 千円
	乾燥機の取替 4 台 317 千円
女子学生寄宿舍	ベッドのマットレスの取替 20 枚 399 千円
	センサーライトの交換及び共同棟のカーテンレールの修繕 75 千円
	下駄箱の購入及び既存の下駄箱の棚の増設 130 千円
	オーブントースターの取替 6 台 42 千円
	傘立ての取替 80 千円
国際女子学生寄宿舍	階段踊り場網戸取換工事 62 千円
	ベッドのマットレスの取替 20 枚 399 千円
	オーブントースターの取替 4 台 28 千円

三重大学 奨学生数

令和 6 年 3 月現在

学部等			区分	在学生数	日本学生支援機構				地方公共団体 民間育英団体	入学特別 奨学金	合計	在学生に 対する 百分率
					給付	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計				
学部	人文学部			1,101	107	144	112	363	3		366	33.2%
	教育学部			823	77	120	81	278	13		291	35.4%
	医学部			1,084	71	94	106	271	330		601	55.4%
	工学部			1,759	150	224	177	551	16		567	32.2%
	生物資源学部			1,117	96	144	110	350	10		360	32.2%
大学院	人文社会科学研究科			30		1	0	1	0	0	1	3.3%
	教育学研究科	修士	2		0	0	0	0	0	0	0	0.0%
		専門	40		5	1	6	1	2	9	22.5%	
	医学系研究科	修士	14		0	0	0	0	0	0	0	0.0%
		前期	25		1	0	1	1	0	2	8.0%	
		後期	19		1	1	2	1	0	3	15.8%	
		博士	203		1	1	2	0	0	2	1.0%	
	工学研究科	前期	493		159	7	166	3	6	175	35.5%	
		後期	49		4	0	4	0	0	4	8.2%	
	生物資源学 研究科	前期	219		61	5	66	7	6	79	36.1%	
		後期	45		0	1	1	0	0	1	2.2%	
	地域イノベーション学 研究科	前期	42		7	0	7	0	1	8	19.0%	
		後期	36		2	0	2	0	0	2	5.6%	
計				7,101	501	968	602	2,071	385	15	2,471	34.8%

↑
在学生数
R5.5.1 現在

2023 年度 外国人留学生数（学部・研究科等別）

11月1日現在

	学部				修士				博士				計	
	正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規			
人文学部・ 人文社会科学研究科	10	(3)	39	(22)	9	(1)	4	(3)					62	(29)
教育学部・ 教育学研究科	0	(0)	6	(4)	1	(1)	0	(0)					7	(5)
医学部・ 医学系研究科	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	17	(9)	1	(1)	19	(11)
工学部・工学研究科	20	(4)	7	(1)	8	(4)	3	(2)	27	(10)	0	(0)	65	(21)
生物資源学部・ 生物資源学研究科	2	(1)	5	(4)	15	(5)	1	(0)	23	(8)	0	(0)	46	(18)
地域イノベーション学 研 究 科					4	(4)	4	(2)	5	(3)	0	(0)	13	(9)
国際交流センター			40	(31)			0	(0)			0	(0)	40	(31)
計	32	(8)	97	(62)	37	(15)	13	(8)	72	(30)	1	(1)	252	(124)

() は、内数で女子を示す。

2023 年度 国籍別外国人留学生数調

総数（女子）

28 ヶ国・地域	252 (124)
----------	-----------

11 月 1 日現在

地 域 ・ 国 名		【 学 部 】		【 大 学 院 】		【国際交流 センター】	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生	
ア ジ ア	中 国	9 (3)	28 (15)	44 (20)	9 (7)	27 (22)	117 (67)
	インドネシア		1 (1)	16 (5)		1 (0)	18 (6)
	ベトナム	9 (0)		3 (1)		6 (6)	18 (7)
	韓 国	12 (4)	5 (4)	1 (1)			18 (9)
	マレーシア	1 (0)	6 (1)	7 (6)			14 (7)
	台 湾		5 (2)	1 (0)	1 (1)	3 (1)	10 (4)
	タ イ			5 (3)		1 (1)	6 (4)
	フィリピン			5 (3)			5 (3)
	バングラデシュ		1 (1)	4 (1)	2 (1)		7 (3)
	ミャンマー			1 (1)			1 (1)
	カンボジア	1 (1)					1 (1)
	スリランカ			1 (0)			1 (0)
ア フ リ カ	ガーナ			5 (1)			5 (1)
	ザンビア			4 (1)			4 (1)
	エジプト			2 (1)			2 (1)
	アルジェリア			2 (0)			2 (0)
	ベナン共和国			1 (0)			1 (0)
	ケニア			1 (1)			1 (1)
	モザンビーク			1 (0)			1 (0)
	タンザニア			1 (0)			1 (0)
ヨ ー ロ ッ パ	ドイツ		5 (4)		1 (0)	1 (0)	7 (4)
	フランス		4 (3)		1 (0)		5 (3)
	スウェーデン		2 (0)				2 (0)
	クロアチア					1 (1)	1 (1)
	ブルガリア			1 (0)			1 (0)
中 東	シリア			1 (0)			1 (0)
中 南 米	メキシコ			1 (0)			1 (0)
オセアニア	ソロモン諸島			1 (0)			1 (0)
合 計		32 (8)	57 (31)	109 (45)	14 (9)	40 (31)	252 (124)
		89 (39)		123 (54)		40 (31)	

() は、内数で女子を示す。

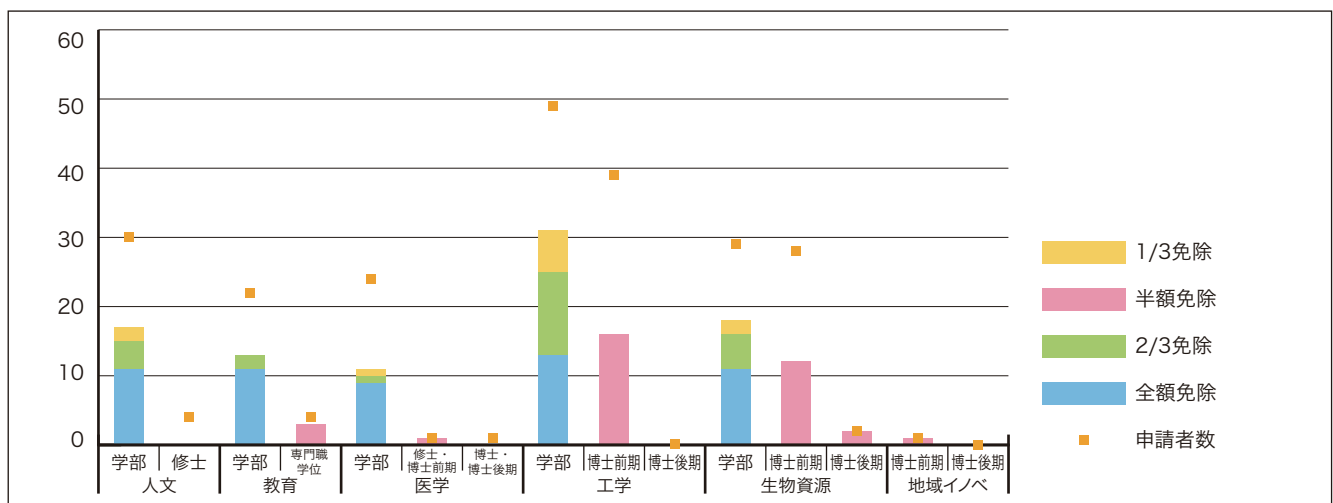
正規生	非正規生
141 (53)	111 (71)

令和5年度 入学料免除者数（学部・研究科別）

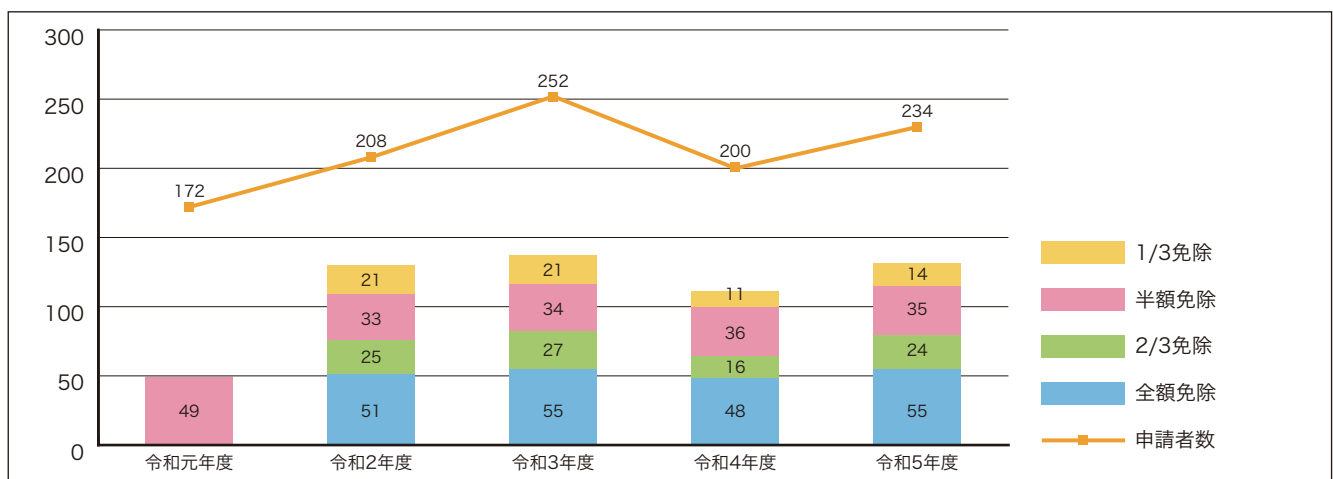
入学料免除

学部・研究科名		申請者数	全額免除	2/3 免除	半額免除	1/3 免除
人文	学部	30	11	4	—	2
	修士	4	0	—	0	—
教育	学部	22	11	2	—	3
	専門職学位	4	0	—	3	—
医学	学部	24	9	1	—	1
	修士・博士前期	1	0	—	1	—
	博士・博士後期	1	0	—	0	—
工学	学部	49	13	12	—	6
	博士前期	39	0	—	16	—
	博士後期	0	0	—	0	—
生物資源	学部	29	11	5	—	2
	博士前期	28	0	—	12	—
	博士後期	2	0	—	2	—
地域イノベ	博士前期	1	0	—	1	—
	博士後期	0	0	—	0	—
合 計		234	55	24	35	14

令和5年度入学料免除者数



過去5年間の三重大学における入学料免除者数（令和元年度～令和5年度）

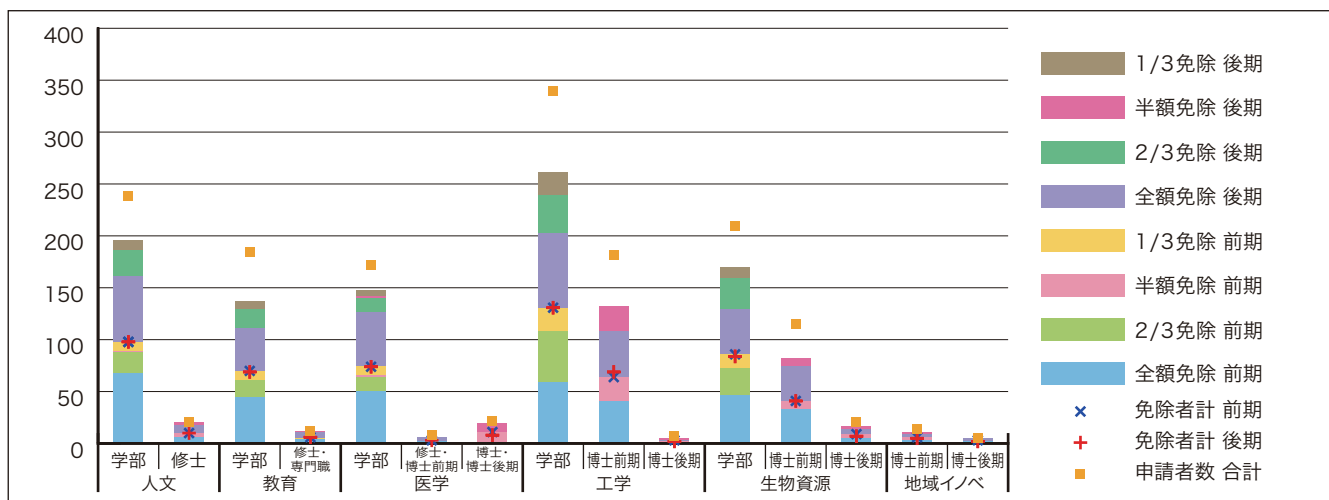


令和5年度 授業料免除者数(学部・研究科別)

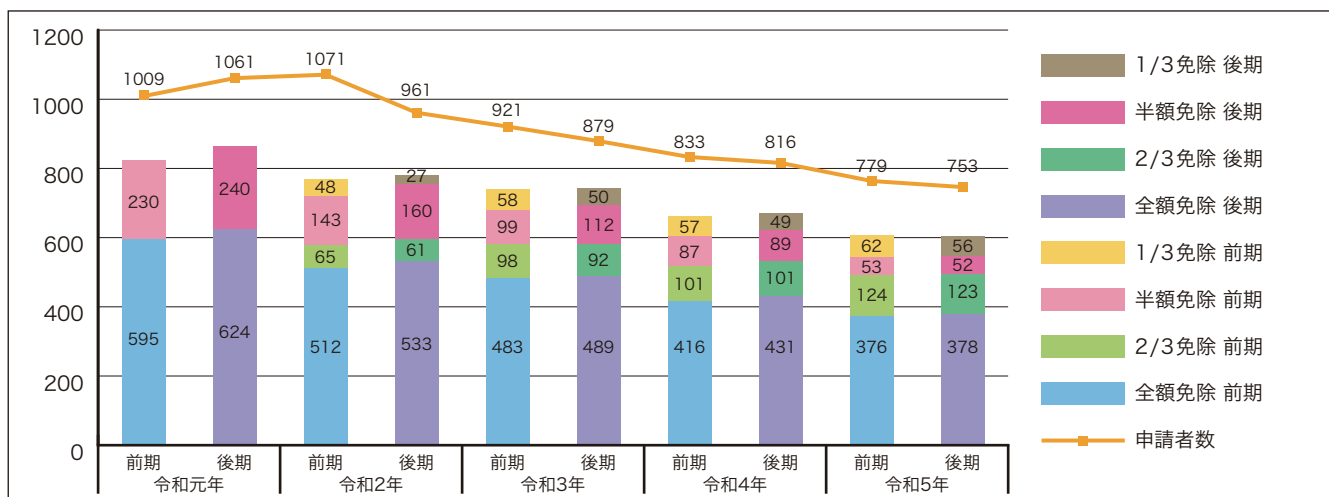
授業料免除

学部・研究科名		申請者数			全額免除		2/3 免除		半額免除		1/3 免除		免除者計	
		前期	後期	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	学部	122	117	239	68	63	20	26	1	0	9	9	98	98
	修士	10	11	21	7	7	-	-	3	3	-	-	10	10
教育	学部	83	81	164	45	43	16	19	0	0	9	7	70	69
	修士・専門職	6	6	12	5	5	-	-	1	1	-	-	6	6
医学	学部	88	84	172	51	53	13	13	2	2	8	6	74	74
	修士・博士前期	4	4	8	3	3	-	-	0	0	-	-	3	3
	博士・博士後期	13	9	22	1	0	-	-	10	8	-	-	11	8
工学	学部	171	169	340	59	72	49	36	0	0	23	23	131	131
	博士前期	89	93	182	41	44	-	-	23	25	-	-	64	69
	博士後期	4	3	7	2	1	-	-	1	1	-	-	3	2
生物資源	学部	109	101	210	47	44	26	29	0	0	13	11	86	84
	博士前期	58	57	115	34	33	-	-	7	8	-	-	41	41
	博士後期	11	10	21	6	5	-	-	3	2	-	-	9	7
地域イノベ	博士前期	8	6	14	4	3	-	-	2	2	-	-	6	5
	博士後期	3	2	5	3	2	-	-	0	0	-	-	3	2
合 計		779	753	1,532	376	378	124	123	53	52	62	56	615	609

令和5年度授業料免除者数



過去5年間の三重大学における授業料免除者数(令和元年度～令和5年度)



令和5年度 学生寄宿舍入寮許可状況

男子学生寄宿舍

定員：109 名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
前期試験合格者対象（注1）	51	16	16	
後期試験合格者対象（注2）	35	4	4	1 名辞退

女子学生寄宿舍

定員：60 名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
前期試験合格者対象（注1）	30	29	29	
後期試験合格者対象（注2）	4	5	4	

（注1） AO 推薦入学試験合格者及び編入学試験合格者を含む

（注2） 編入学試験合格者を含む

国際女子学生寄宿舍

定員：日本人学生 50 名 留学生 25 名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
日本人学生（2 年生転寮）	15	15	15	
留学生	25	1	1	

留学生会館

定員：35 室	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室（30 人）	前期	13	10	
	後期	15	11	
夫婦室（5 室）	前期	2	2	
	後期	0	0	

留学生寄宿舍 A 棟

定員：34 名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室（34 人）	前期	31	31	
	後期	15	11	

留学生寄宿舍 B 棟

定員：35 名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室（35 人）	前期	34	23	
	後期	18	12	

留学生寄宿舍 C・D 棟

定員：85 名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
单身室(29 人)※	前期	25	23	
	後期	17	14	
4人部屋(56 人)	前期	40	28	
	後期	37	18	

※ C 棟の留学生用单身室は 9 部屋。C 棟には他に研究者用单身室が 6 部屋ある。

令和5年度 学生保険の加入について

● 学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険

令和5年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人 文 学 部		253	191	75.5%
教 育 学 部		205	134	65.4%
医 学 部		205	202	98.5%
工 学 部		412	363	88.1%
生 物 資 源 学 部		273	190	69.6%
学部計		1,348	1,080	80.1%
人文社会科学部研究科		11	5	45.5%
教育学研究科		19	14	73.7%
医 学 系 研 究 科	生命医科学専攻（博士課程）	36	16	44.4%
	看護学専攻（博士後期課程）	2	0	0.0%
	看護学専攻（博士前期課程）	4	4	100.0%
	医科学専攻（修士課程）	7	4	57.1%
工 学 研 究 科	（ 博 士 後 期 課 程 ）	16	13	81.3%
	（ 博 士 前 期 課 程 ）	236	170	72.0%
生 物 資 源 学 研 究 科	（ 博 士 後 期 課 程 ）	15	10	66.7%
	（ 博 士 前 期 課 程 ）	110	70	63.6%
地域イノベーション学研究科	（ 博 士 後 期 課 程 ）	6	6	100.0%
	（ 博 士 前 期 課 程 ）	16	14	87.5%
大学院計		478	326	68.2%
合計		1,826	1,406	77.0%

● 学研災付帯学生生活総合保険

令和5年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人 文 学 部		253	4	1.6%
教 育 学 部		205	2	1.0%
医 学 部		205	10	4.9%
工 学 部		412	11	2.7%
生 物 資 源 学 部		273	7	2.6%
学部計		1,348	34	2.5%
人文社会科学部研究科		11	0	0.0%
教育学研究科		19	0	0.0%
医 学 系 研 究 科	生命医科学専攻（博士課程）	36	0	0.0%
	看護学専攻（博士後期課程）	2	0	0.0%
	看護学専攻（博士前期課程）	4	0	0.0%
	医科学専攻（修士課程）	7	0	0.0%
工 学 研 究 科	（ 博 士 後 期 課 程 ）	16	1	6.3%
	（ 博 士 前 期 課 程 ）	236	10	4.2%
生 物 資 源 学 研 究 科	（ 博 士 後 期 課 程 ）	15	0	0.0%
	（ 博 士 前 期 課 程 ）	110	1	0.9%
地域イノベーション学研究科	（ 博 士 後 期 課 程 ）	6	0	0.0%
	（ 博 士 前 期 課 程 ）	16	0	0.0%
大学院計		478	12	2.5%
合計		1,826	46	2.5%

●大学生協の学生総合共済

令和5年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人 文 学 部		253	190	75.1%
教 育 学 部		205	151	73.7%
医 学 部		205	154	75.1%
工 学 部		412	321	77.9%
生 物 資 源 学 部		273	211	77.3%
学部計		1,348	1,027	76.2%
人文社会科学 研究科		11	2	18.2%
教育学 研究科		19	8	42.1%
医 学 系 研 究 科	生命医科学専攻（博士課程）	36	0	0.0%
	看護学専攻（博士後期課程）	2	0	0.0%
	看護学専攻（博士前期課程）	4	0	0.0%
	医科学専攻（修士課程）	7	3	42.9%
工 学 研 究 科	（博士後期課程）	16	2	12.5%
	（博士前期課程）	236	171	72.5%
生 物 資 源 学 研 究 科	（博士後期課程）	15	2	13.3%
	（博士前期課程）	110	75	68.2%
地域イノベーション学 研究科	（博士後期課程）	6	0	0.0%
	（博士前期課程）	16	11	68.8%
大学院計		478	274	57.3%
合計		1,826	1,301	71.2%

●学研災・学研賠又は大学生協保険の加入者について

令和5年度

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人 文 学 部		253	243	96.0%
教 育 学 部		205	205	100.0%
医 学 部		205	204	99.5%
工 学 部		412	403	97.8%
生 物 資 源 学 部		273	270	98.9%
学部計		1,348	1,325	98.3%
人文社会科学 研究科		11	7	63.6%
教育学 研究科		19	19	100.0%
医 学 系 研 究 科	生命医科学専攻（博士課程）	36	16	44.4%
	看護学専攻（博士後期課程）	2	0	0.0%
	看護学専攻（博士前期課程）	4	4	100.0%
	医科学専攻（修士課程）	7	5	71.4%
工 学 研 究 科	（博士後期課程）	16	13	81.3%
	（博士前期課程）	236	211	89.4%
生 物 資 源 学 研 究 科	（博士後期課程）	15	12	80.0%
	（博士前期課程）	110	105	95.5%
地域イノベーション学 研究科	（博士後期課程）	6	6	100.0%
	（博士前期課程）	16	16	100.0%
大学院計		478	414	86.6%
合計		1,826	1,739	95.2%

Ⅲ キャリアセンター

令和5年度 活動報告

1 キャリア教育科目について

キャリア教育領域

科目群	授業科目・単位		(分野 H26年度 以前入学 者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
						前期	後期	前期	後期
キャリア 教育基礎	キャリア教育入門	2単位	社会	キャリア形成	各学部開催			—	435
	インターンシップ入門	2単位	社会	インターンシップ	長岡 みか	火5・6	—	76	—
			社会	インターンシップ	長岡 みか	—	火5・6	—	78
学生支援	ピアサポート実践	2単位	社会	ピアサポート実践	鈴木 英一郎 他	金9・10	—	11	—
			社会	ピアサポート実践	風間 惇希 他	—	金9・10	—	15
	学生生活支援実践	2単位	社会	学生生活支援実践	鈴木 英一郎	—	金7・8	—	—
	学習支援実践	2単位	社会	学習支援の企画と実践	風間 惇希	水9・10	—	7	—
就業力 育成	ビジネスキャリア入門	2単位	社会	ビジネスキャリア	小室 銘子	水9・10	—	14	—
			社会	ビジネスキャリア	日下 清佳	—	木7・8	—	29

キャリア教育関連教養統合科目

地域理解・日本理解領域

科目群	授業科目・単位		(分野 H26年度 以前入学 者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
						前期	後期	前期	後期
日本理解 特殊講義	日本理解特殊講義	2単位	社会	起業マインドの醸成	八神 寿徳 他	—	金3・4	—	4
			社会	地域の仕事を知る	西村 訓弘 他	月7・8	—	118	—

国際理解・現代社会理解領域

科目群	授業科目・単位		(分野 H26年度 以前入学 者対象)	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数	
						前期	後期	前期	後期
心理学	こころのサポート	2単位	社会	こころのサポート	望木 郁代	木3・4	—	55	—
			社会	こころのサポート	風間 惇希	水5・6	—	151	—
			社会	こころのサポート	望木 郁代	—	木3・4	—	39
			社会	こころのサポート	鈴木 英一郎	—	木9・10	—	50
国際理解 実践	国際理解実践	2単位	社会	留学生支援実践	風間 惇希	—	水9・10	—	5
現代社会 理解実践	現代社会理解実践	2単位	社会	障害学生支援実践	風間 惇希 他	—	火3・4	—	35

2 インターンシップ

令和5年度インターンシップ参加者数（所属学部・研究科別／学年別）

【延べ数】

所属	学部生					大学院生			合計
	1 年	2 年	3 年	4 年	小計	修士	博士	小計	
人文学部	2	60	228	3	293			0	293
教育学部	5		7		12			0	12
医学部					0			0	0
工学部		1	117	24	142	44	1	45	187
生物資源学部	5	54	118	5	182	15		15	197
地域イノベーション学研究科	-	-	-	-	0	9		9	9
合計	12	115	470	32	629	68	1	69	698

■ 企業等受入数（実数） 261 機関

■ 事前研修会 504 名

■ 事後研修会 429 名

3 就職活動支援

(1) 就職ガイダンス

- ・令和5年4月～令和6年3月 28回実施
- ・参加数 延べ7,529人(2024.3.31)

NO.	日程	曜日	時間帯	開催場所	ガイダンス概要	参加者数	講師
1	4月14日	金	13:00～15:00 16:20～18:20	三翠ホール	①キャリアセンタースタートアップガイダンス ②就職活動スケジュール・準備について概要	803	キャリアセンター・マイナビ
	4月19日	水	16:20～18:20	WEB			
2	4月26日	水	16:20～17:50	WEB	自己分析対策講座（SPI 性格検査）	255	リクナビ
3	4月28日	金	16:20～17:50	WEB	公務員対策講座	156	キャリアセンター
4	5月上旬～		通年	WEB	インターンシップ先の探し方講座	183	キャリアセンター
5	5月上旬～		通年	WEB	インターンシップ履歴書対策講座	485	キャリアセンター
6	5月17日	水	16:20～17:50	WEB	インターンシップに向けた業界研究講座	162	マイナビ
	5月19日	金				177	
7	5月24日	水	16:20～18:00	WEB	インターンシップ学内企業説明会 (協定締結企業 15 社程度 ×4 日程)	148	キャリアセンター
	5月26日	金				150	
	5月31日	水				114	
	6月2日	金				117	
8	6月7日	水	16:20～17:50	WEB	インターンシップ履歴書対策講座	25	キャリアセンター
9	6月14日	水	16:20～17:50	WEB	筆記試験対策講座	100	キャリアタス
10	6月21日	水	12:10～13:00	WEB	就職もやもや部屋	14	キャリアタス
11	7月5日	水	16:20～17:50	WEB	IS の活躍講座	102	マイナビ
12	6月下旬～		通年	WEB	インターンシップ事前研修会（人文学部）	498	各学部 キャリアセンター
					インターンシップ事前研修会（工学部）		
					インターンシップ事前研修会(生物資源学部)		
					インターンシップ事前研修会 (教育学部・医学部)		
13	10月7日	土	13:00～	三翠ホール	後期スタートアップガイダンス+企業・業界研究 ①これまでのガイダンスについて総括、過去回紹介 ②今後の就職活動スケジュール、準備について本学のガイダンス予定を絡めながら紹介 + OBOG 交流セミナー（仮称）(60 社)	477	キャリアセンター・マイナビ or リクナビ
14	10月7日	土	10:00～12:00	三翠ホール等	父母等対象就職活動説明会	420	キャリアセンター
			13:30～	対面	学部別父母等対象説明会	477	各学部

NO.	日程	曜日	時間帯	開催場所	ガイダンス概要	参加者数	講師
15	10月13日	金	16:20～17:20	WEB	1・2年生向けキャリアガイダンス「学生生活の充実が就職活動に与えるよい影響」(仮称)	91	マイナビ
16	10月24日 11月10日		16:30～18:00	WEB	インターンシップ事後研修会(人文学部)	363	各学部 キャリアセンター
	10月30日 11月14日				インターンシップ事後研修会(工学部)		
	10月23日 11月8日				インターンシップ事後研修会(生物資源学部)		
17	10月16日	月	12:30～13:00	WEB	就職もやもや部屋	12	キャリアタス
18	10月25日	水	16:20～17:50	WEB	エントリーシート対策(自己PR・志望動機)	71	マイナビ
	10月27日	金				84	
19	11月15日	水	14:40～17:20	WEB	業界研究セミナー(15社)就職支援講座コラボ	186	キャリアセンター
20	11月22日	水	14:40～17:20	WEB	業界研究セミナー(15社)就職支援講座コラボ	198	キャリアセンター
21	12月6日	水	16:20～17:50	イノベホール	就活裏話 ～採用活動のリアルな今～ → MONO+ 三重大学選定企業」	20	アール・ コンサルティング
	12月8日	金		WEB		33	
22	12月15日	金	12:30～13:00 16:30～17:00	WEB	就職もやもや部屋	5	キャリアタス
23	1月10日	水	16:20～17:50	WEB	面接対策講座	51	マイナビ
24	1月17日	水	16:20～参加官署 PRスピーチ 16:55～ブース形式 4ターム実施 1回目	WEB	公務員業務説明会	91	キャリアセンター
	1月19日	金	16:55～17:25 2回目 17:30～18:00	WEB		106	
25	1月26日	金	16:20～17:50	WEB	就職活動直近ガイダンス(CC;学内企業説明 会まわりかた講座+企業研究ノウハウ含む)、	68	マイナビ
	1月31日	水	16:20～17:50	WEB		82	
26	2月14日		16:30～17:50	WEB	インターンシップ事後研修会(全学部)	22	各学部 キャリアセンター
27	2月19日～ 2月21日	月～水	終日	三翠ホール	学内企業研究会 270社	407	委託業者
28	2月28日～ 3月1日	水～金	終日	ZOOM	学内企業説明会 168社	314	キャリアセンター

(2) ミニ講座（少人数制：個人面接・集団面接・グループディスカッション対策）

・令和5年4月～令和6年3月 12回実施 オンライン・対面

・参加学生数 延べ61人

	実施日	内容	参加数		実施日	内容	参加数
1	4月7日	個人面接対策（2人オンライン、4人対面）	6	7	12月20日	個人面接対策（1人オンライン、2人対面）	3
2	4月26日	個人面接対策（2人オンライン、4人対面）	6	8	1月24日	個人面接対策（オンライン）	6
3	5月26日	個人面接対策（2人オンライン、3人対面）	5	9	2月9日	個人面接対策（2人オンライン、4人対面）	6
4	6月23日	個人面接対策（2人オンライン、3人対面）	5	10	2月26日	個人面接対策（オンライン）	6
5	7月14日	個人面接対策（2人オンライン、4人対面）	6	11	3月13日	個人面接対策（オンライン）	6
6	7月21日	個人面接対策（1人オンライン、5人対面）	6	12	3月27日	個人面接対策（2人オンライン、4人対面）	5
計							66

(3) 就職相談

・キャリアカウンセラー就職相談〔就職相談コーナー〕

【月別・相談内容別件数】

その他（送付状・お礼状・E-mail作成）

延べ数

	就職 相談	進路決定 相談	内定・内 定の相談	履歴書 作成	エントリー シート作成	志望 動機	自己 PR	面接		自己 分析	その他	合計
4月	41	1	12	2	55	1	2	112	0	0	3	229
5月	43	1	17	1	44	2	4	101	0	2	2	217
6月	41	2	13	4	104	0	5	77	0	2	3	251
7月	40	0	6	1	61	2	3	88	0	0	3	204
8月	32	3	5	0	24	1	1	44	0	1	2	113
9月	34	1	1	2	23	3	0	31	0	0	0	95
10月	39	2	1	1	52	3	1	58	1	2	3	163
11月	38	2	2	1	89	3	3	50	0	2	1	191
12月	37	1	2	3	84	3	5	50	0	1	0	186
1月	29	0	2	2	58	2	3	104	0	0	0	200
2月	43	0	3	2	59	5	5	93	0	0	0	210
3月	45	1	6	3	80	3	2	79	2	1	0	222
合計	462	14	70	22	733	28	34	887	3	11	17	2281

4 キャリアピアサポーター

■ 令和5年度（前期）資格認定者

上級 1人
初級 0人
CPS 2人
SA 3人

■ 令和5年度（後期）資格認定者

上級 0人
初級 0人
CPS 10人
SA 0人

合計 16人

令和5年度就職状況について

【地域別就職状況及び就職率】

令和6年5月1日現在

区 分			卒業・修了者	卒業・修了者の内訳										就職率(%) (就職希望者に占める就職者の割合)=[(就職者)/(就職者+未内定者)]×100						
				進学者	臨床研修医	その他	うち未内定者	就職者	三重県	愛知県	東海地方 (静岡・岐阜)	関東地方	近畿地方	その他	令和5年度		(参 考) 令和4年度 就職率(%)	(参 考) 令和3年度 就職率(%)		
															就職率(%)	対前年度増減(%)				
学部	人文学部	文化学科	102 (66)	4 (3)	()	7 (4)	1 (1)	91 (59)	16 (10)	35 (23)	4 (3)	23 (12)	8 (6)	5 (5)	98.9 (98.3)	0.1 (△ 1.7)	98.8 (100.0)	95.5 (97.1)		
		法律経済学科	170 (71)	10 (5)	()	12 (3)	2 ()	148 (63)	39 (16)	51 (18)	3 (1)	39 (20)	11 (5)	5 (3)	98.7 (100.0)	2.2 (5.4)	96.4 (94.6)	98.2 (100.0)		
		計	272 (137)	14 (8)	()	19 (7)	3 (1)	239 (122)	55 (26)	86 (41)	7 (4)	62 (32)	19 (11)	10 (8)	98.8 (99.2)	1.5 (2.2)	97.2 (97.0)	97.3 (98.7)		
	教育学部	学校教育教員養成課程	194 (128)	11 (1)	()	8 (5)	3 (3)	175 (122)	107 (82)	38 (20)	5 (3)	14 (9)	7 (4)	4 (4)	98.3 (97.6)	△ 0.1 (△ 0.8)	98.4 (98.4)	99.5 (99.1)		
		計	194 (128)	11 (1)	()	8 (5)	3 (3)	175 (122)	107 (82)	38 (20)	5 (3)	14 (9)	7 (4)	4 (4)	98.3 (97.6)	△ 0.1 (△ 0.8)	98.4 (98.4)	99.5 (99.1)		
	医学部	医学	133 (36)	()	127 (35)	6 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
		看護学	78 (73)	()	()	1 ()	()	77 (73)	46 (44)	19 (18)	()	3 (3)	7 (7)	2 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	98.7 (98.7)		
		計	211 (109)	()	127 (35)	7 (1)	()	77 (73)	46 (44)	19 (18)	()	3 (3)	7 (7)	2 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	98.7 (98.7)		
	工学部	機械工学科	機械工学科	3 ()	()	()	()	()	3 ()	()	2 ()	()	()	()	1 ()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	100.0 (100.0)	
			電気電子工学科	5 ()	1 ()	()	()	()	4 ()	()	2 ()	()	2 ()	()	()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	96.7 (100.0)	
			分子素材工学科	3 (1)	()	()	()	()	3 (1)	()	2 (1)	()	()	1 ()	()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	100.0 (100.0)	
			建築学	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	100.0 (-)	(-)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			情報工学科	2 ()	()	()	()	()	2 ()	1 ()	()	()	1 ()	()	()	100.0 (-)	33.4 (-)	66.7 (-)	96.4 (100.0)	
			物理工学科	2 ()	()	()	1 ()	()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	()	100.0 (-)	100.0 (-)	(-)	100.0 (100.0)	
			総合工学科	機械工学コース	91 (9)	63 (5)	()	1 ()	()	27 (4)	8 (2)	5 (1)	1 ()	8 (1)	2 ()	3 ()	100.0 (-)	- (-)	100.0 (-)	- (-)
				電気電子工学コース	94 (4)	54 (3)	()	2 ()	1 ()	38 (1)	7 ()	17 (1)	2 ()	5 ()	5 ()	2 ()	97.4 ()	- (-)	96.7 ()	- (-)
				応用化学コース	91 (32)	70 (26)	()	1 ()	1 ()	20 (6)	9 (4)	4 (1)	()	6 (1)	1 ()	()	95.2 (100.0)	- (-)	92.3 (100.0)	- (-)
				建築学コース	48 (12)	25 (5)	()	1 ()	()	22 (7)	1 (1)	4 (2)	2 (2)	9 (1)	6 (1)	()	100.0 (100.0)	- (-)	100.0 (100.0)	- (-)
			情報工学コース	53 (4)	25 ()	()	()	()	28 (4)	3 (1)	11 ()	1 ()	10 (3)	1 ()	2 ()	100.0 (100.0)	- (-)	100.0 (100.0)	- (-)	
		計	393 (62)	238 (39)	()	6 ()	2 ()	149 (23)	29 (8)	47 (6)	7 (2)	42 (6)	16 (1)	8 ()	98.7 (100.0)	2.6 (3.2)	98.1 (98.8)	98.6 (100.0)		
	生物資源学部	資源循環学科	67 (32)	20 (5)	()	3 (2)	1 (1)	44 (25)	9 (3)	8 (4)	2 (1)	15 (11)	6 (2)	4 (4)	97.8 (96.2)	△ 0.2 (△ 3.8)	98.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
		共生環境学科	72 (26)	22 (5)	()	3 ()	()	47 (21)	6 (3)	15 (5)	2 (1)	13 (7)	9 (5)	2 ()	100.0 (100.0)	2.0 ()	98.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
		生物圏生命化学科	81 (46)	39 (23)	()	2 ()	1 ()	40 (23)	12 (8)	8 (7)	2 ()	12 (5)	5 (3)	1 ()	97.6 (100.0)	0.6 ()	97.1 (100.0)	97.6 (100.0)		
		海洋生物資源学科	39 (10)	23 (3)	()	()	()	16 (7)	1 ()	4 (2)	2 (1)	8 (3)	()	1 (1)	100.0 (100.0)	5.6 ()	94.4 (100.0)	95.2 (100.0)		
		計	259 (114)	104 (36)	()	8 (2)	2 (1)	147 (76)	28 (14)	35 (18)	8 (3)	48 (26)	20 (10)	8 (5)	98.7 (98.7)	1.4 (△ 1.3)	97.4 (100.0)	98.7 (100.0)		
	合 計	計	1,329 (550)	367 (84)	127 (35)	48 (15)	10 (5)	787 (416)	265 (174)	225 (103)	27 (12)	169 (76)	69 (33)	32 (18)	98.7 (98.8)	1.2 (0.4)	97.6 (98.4)	98.4 (98.1)		
大学院	人文社会科学部	地域文化論専攻(修士課程)	6 (3)	2 ()	()	()	()	4 (3)	1 (1)	2 (1)	()	1 (1)	()	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	()	66.7 (100.0)		
		社会科学専攻(修士課程)	3 (1)	()	()	1 ()	()	2 (1)	2 (1)	()	()	()	()	()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	75.0 (50.0)		
		計	9 (4)	2 ()	()	1 ()	()	6 (4)	3 (2)	2 (1)	()	1 (1)	()	()	100.0 (100.0)	25.0 (33.3)	75.0 (66.7)	70.0 (80.0)		
	教育学研究科	教育科学専攻(修士課程)	2 (1)	()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	- (-)	- (-)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
		教職実践高度化専攻(専門職学位課程)	20 (7)	1 ()	()	1 (1)	()	18 (6)	16 (5)	()	()	()	1 (1)	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
		計	22 (8)	1 ()	()	3 (2)	()	18 (6)	16 (5)	()	()	()	1 (1)	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
	医学系研究科	医学専攻(修士課程)	8 (2)	1 ()	()	()	()	7 (2)	3 (1)	2 (1)	()	1 ()	()	1 ()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	100.0 (100.0)		
		看護学専攻(博士課程前期)	10 (9)	1 (1)	()	()	()	9 (8)	8 (7)	()	()	()	()	1 (1)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
		看護学専攻(博士課程後期)	4 (3)	()	()	()	()	4 (3)	1 (1)	2 (2)	()	()	1 ()	()	100.0 (100.0)	33.3 (33.3)	66.7 (66.7)	100.0 (100.0)		
		生命医科学専攻(博士課程)	56 (17)	()	()	()	()	56 (17)	48 (14)	()	()	2 (1)	()	6 (2)	100.0 (100.0)	2.2 ()	97.8 (100.0)	100.0 (100.0)		
		計	78 (31)	2 (1)	()	()	()	76 (30)	60 (23)	4 (3)	()	3 (1)	1 ()	8 (3)	100.0 (100.0)	3.4 (4.5)	98.6 (95.5)	100.0 (100.0)		
	工学研究科	機械工学科	機械工学専攻	53 ()	1 ()	()	()	()	52 ()	3 ()	23 ()	1 ()	17 ()	7 ()	1 ()	100.0 (-)	()	100.0 (-)	100.0 (100.0)	
			電気電子工学専攻	52 (1)	()	()	()	()	52 (1)	3 ()	22 (1)	()	21 ()	5 ()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			分子素材工学専攻	68 (15)	3 ()	()	2 (1)	()	63 (14)	6 (2)	31 (5)	1 ()	18 (5)	6 (2)	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			建築学専攻	15 (3)	()	()	2 (1)	1 (1)	13 (2)	3 ()	2 ()	()	6 (2)	2 ()	()	92.9 (66.7)	△ 7.1 (△ 33.3)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			情報工学専攻	25 ()	()	()	()	()	25 ()	()	10 ()	1 ()	11 ()	2 ()	1 ()	100.0 (-)	3.7 (-)	96.3 (100.0)	90.9 (100.0)	
			物理工学専攻	16 (2)	()	()	1 ()	()	15 (2)	()	7 (2)	1 ()	6 ()	1 ()	()	100.0 (100.0)	(-)	100.0 (100.0)	90.9 (-)	
			計(博士前期)	229 (21)	4 ()	()	5 (2)	1 (1)	220 (19)	15 (2)	95 (8)	4 ()	79 (7)	23 (2)	4 ()	98.5 (95.0)	0.0 (△ 5.0)	99.5 (100.0)	99.0 (100.0)	
			材料科学専攻	4 (1)	()	()	()	()	4 (1)	1 ()	()	()	2 (1)	()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		システム工学専攻	9 ()	()	()	1 ()	1 ()	8 ()	3 ()	1 ()	()	1 ()	()	3 ()	88.9 (-)	8.9 (-)	80.0 (66.7)	100.0 (100.0)		
		計(博士後期)	13 (1)	()	()	1 ()	1 ()	12 (1)	4 ()	1 ()	()	3 (1)	()	4 ()	92.3 (100.0)	4.8 (25.0)	87.5 (75.0)	100.0 (100.0)		
	生物資源学研	資源循環学専攻	資源循環学専攻	19 (7)	2 (1)	()	1 (1)	()	16 (5)	2 (1)	3 (2)	1 ()	4 (1)	4 (1)	2 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			共生環境学専攻	22 (4)	3 (1)	()	1 (1)	1 (1)	18 (2)	()	9 ()	1 ()	4 (2)	2 ()	2 ()	94.7 (66.7)	△ 5.3 (△ 33.3)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			生物圏生命科学専攻	49 (21)	2 (1)	()	1 (1)	()	46 (19)	13 (4)	6 (5)	1 ()	14 (4)	3 (2)	9 (4)	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			計(博士前期)	90 (32)	7 (3)	()	3 (3)	1 (1)	80 (26)	15 (5)	18 (7)	3 ()	22 (7)	9 (3)	13 (4)	98.8 (98.3)	△ 1.2 (△ 3.7)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
			資源循環学専攻	4 (3)	()	()	3 (3)	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	100.0 (-)	(-)	100.0 (100.0)	100.0 (-)	
			共生環境学専攻	3 (1)	()	()	()	()	3 (1)	1 (1)	()	()	1 ()	1 ()	()	100.0 (100.0)	20.0 (-)	80.0 (100.0)	100.0 (-)	
		生物圏生命科学専攻	6 (1)	()	()	1 (1)	()	5 ()	2 ()	()	()	1 ()	1 ()	1 ()	100.0 (-)	(-)	100.0 (-)	100.0 (-)		
		計(博士後期)	13 (5)	()	()	4 (4)	()	9 (1)	4 (1)	()	()	2 ()	2 ()	1 ()	100.0 (100.0)	14.3 (-)	85.7 (100.0)	100.0 (-)		
	地域イノベーション学研	地域イノベーション学専攻(博士前期)	地域イノベーション学専攻(博士前期)	21 (6)	1 ()	()	2 (1)	1 ()	18 (5)	5 (2)	5 ()	()	6 (1)	1 (1)	1 (1)	94.7 (100.0)	5.8 ()	88.9 (100.0)	100.0 (100.0)	
			計	21 (6)	1 ()	()	2 (1)	1 ()	18 (5)	5 (2)	5 ()	()	6 (1)	1 (1)	1 (1)	94.7 (100.0)	5.8 ()	88.9 (100.0)	100.0 (100.0)	
			地域イノベーション学専攻(博士後期)	6 (2)	()	()	1 (1)	()	5 (1)	1 ()	2 (1)	()	1 ()	()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		計	8 (2)	()	()	1 (1)	()	5 (1)	1 ()	2 (1)	()	1 ()	()	1 ()	100.0 (100.0)	()	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)		
合 計	481 (110)	17 (4)	()	20 (13)	4 (2)	444 (99)	123 (40)	127 (20)	7 ()	117 (18)	37 (7)	33 (8)	99.1							

【産業別就職状況】

令和6年5月1日現在

区 分		卒業・修了者	就職者	就 職 者 の 内 訳																				
				農業、林業 漁業、鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道 業	情報通信業	運輸業、 郵便業	卸売・小売業	金融業・ 保険業	不動産業・ 物品賃貸業	学術研究専門・ 技術サービス業	宿泊業、 飲食サービス業	生活関連サービ ス業、娯楽業	教育、学習支援業 (内、教員数)	医療、福祉	複合サービス事 業	サービス業	公務	その他			
学部	人 文 学 部	文 化 学 科	102 (66)	91 (59)	()	1 (1)	9 (8)	1 (1)	18 (10)	3 (3)	14 (9)	9 (5)	4 (2)	1 ()	2 (2)	2 (1)	4 ()	4 ()	4 (4)	1 (1)	2 (2)	16 (10)	()	
		法 律 経 済 学 科	170 (71)	148 (63)	()	3 (2)	23 (10)	2 (1)	19 (5)	5 (1)	9 (3)	19 (7)	2 (2)	9 (7)	1 ()	()	()	()	6 (2)	4 (2)	46 (21)	()		
		計	272 (137)	239 (122)	()	4 (3)	32 (18)	3 (2)	37 (15)	8 (4)	23 (12)	28 (12)	6 (4)	10 (7)	3 (2)	2 (1)	4 ()	4 ()	4 (4)	7 (3)	6 (4)	62 (31)	()	
	教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	194 (128)	175 (122)	()	1 (1)	3 (2)	()	10 (4)	1 (1)	4 (2)	4 (4)	2 (1)	4 (4)	1 ()	()	117 (80)	113 (77)	9 (9)	()	1 ()	17 (13)	1 (1)	
		計	194 (128)	175 (122)	()	1 (1)	3 (2)	()	10 (4)	1 (1)	4 (2)	4 (4)	2 (1)	4 (4)	1 ()	()	117 (80)	113 (77)	9 (9)	()	1 ()	17 (13)	1 (1)	
	医 学 部	医 学 科	133 (36)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		看護学 科	78 (73)	77 (73)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	73 (69)	()	()	4 (4)	()	
	工 学 部	計	211 (109)	77 (73)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	73 (69)	()	()	4 (4)	()	
		機 械 工 学 科	3 ()	3 ()	()	()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	
		電 気 電 子 工 学 科	5 ()	4 ()	()	()	3 ()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		分 子 素 材 工 学 科	3 (1)	3 (1)	()	()	2 ()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		建 築 学 科	1 ()	1 ()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		情 報 工 学 科	2 ()	2 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	
		物 理 工 学 科	2 ()	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		総工学科 合科	機 械 工 学 コース	91 (9)	27 (4)	()	()	14 (1)	()	5 (1)	()	1 ()	()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	1 (1)	()	2 (1)	3 ()
			電 気 電 子 工 学 コース	94 (4)	38 (1)	()	4 (1)	17 ()	1 ()	8 ()	()	1 ()	()	2 ()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	4 ()	()	()
			応 用 化 学 コース	91 (32)	20 (6)	()	()	10 (5)	()	2 ()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	1 ()	()	2 (1)	4 ()	()
			建 築 学 コース	48 (12)	22 (7)	()	19 (5)	()	1 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	2 (1)	()	()
			情 報 工 学 コース	53 (4)	28 (4)	()	()	6 (2)	()	16 (2)	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	3 ()	1 ()	1 ()	()
			計	393 (82)	149 (23)	()	23 (6)	53 (8)	3 (1)	33 (3)	()	3 ()	1 ()	()	4 (1)	()	()	2 ()	2 ()	1 ()	1 (1)	10 (1)	11 (2)	4 ()
		生 物 資 源 学 部	資 源 循 環 学 科	67 (32)	44 (25)	3 (3)	2 ()	10 (8)	()	3 (1)	2 (1)	7 (3)	1 (1)	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	2 (2)	13 (6)	()
			共 生 環 境 学 科	72 (26)	47 (21)	()	5 (4)	8 (4)	1 ()	4 (2)	2 (1)	2 (2)	()	()	3 (1)	()	()	()	()	()	1 ()	2 (1)	19 (6)	()
	生 物 圏 生 命 化 学 科		81 (46)	40 (23)	()	()	15 (11)	()	2 ()	()	5 (3)	2 (1)	()	2 (1)	()	4 ()	2 ()	()	1 ()	()	()	9 (7)	()	
	海 洋 生 物 資 源 学 科		39 (10)	16 (7)	()	1 ()	3 (2)	()	()	()	3 (3)	()	3 (1)	2 (1)	()	2 ()	1 ()	()	()	()	()	2 ()	()	
	計		259 (114)	147 (76)	3 (3)	8 (4)	36 (25)	1 ()	9 (3)	4 (2)	17 (11)	3 (2)	()	6 (2)	4 (2)	()	7 ()	4 ()	()	2 ()	4 (3)	43 (19)	()	
合 計		1,329 (550)	787 (416)	3 (3)	36 (14)	124 (53)	7 (3)	89 (25)	13 (7)	47 (25)	36 (18)	8 (5)	24 (14)	8 (4)	2 (1)	130 (80)	123 (77)	87 (82)	10 (4)	21 (8)	137 (69)	5 (1)		
大学院	人 文 社 会 学 科	地域文化論専攻(修士課程)	6 (3)	3 (2)	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	2 (2)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		社会科学専攻(修士課程)	3 (1)	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	2 (1)	()	
		計	9 (4)	5 (3)	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	2 (2)	()	()	()	()	()	()	2 (1)	()	
	教 育 学 研 究 科	教育学専攻(修士課程)	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		教職実践高度化専攻(専門職学位課程)	20 (7)	18 (6)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	17 (6)	17 (6)	()	()	1 ()	()	()	
		計	22 (8)	18 (6)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	17 (6)	17 (6)	()	()	1 ()	()	()	
	医 学 系 研 究 科	医 学 科 専 攻 (修 士 課 程)	8 (2)	7 (2)	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5 (2)	()	1 ()	()	()	
		看護学専攻(博士課程前期)	10 (9)	9 (8)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	1 (1)	7 (6)	()	()	1 (1)	()		
		看護学専攻(博士課程後期)	4 (3)	4 (3)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	2 (1)	2 (1)	2 (2)	()	()	()	()		
		生命医科学専攻(博士課程)	56 (17)	56 (17)	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	5 (2)	5 (2)	50 (15)	()	()	()	()	()	
	計		78 (31)	76 (30)	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	8 (4)	8 (4)	64 (25)	()	1 ()	1 (1)	()	()	
	工 学 研 究 科	機 械 工 学 専 攻	53 ()	52 ()	()	()	46 ()	3 ()	1 ()	()	()	()	()	2 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		電 気 電 子 工 学 専 攻	52 (1)	52 (1)	()	()	35 (1)	1 ()	13 ()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	1 ()	()	()	
		分 子 素 材 工 学 専 攻	68 (15)	63 (14)	()	()	56 (13)	1 ()	2 (1)	()	1 ()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	2 ()	()	()	
		建 築 学 専 攻	15 (3)	13 (2)	()	6 (2)	1 ()	1 ()	()	()	()	()	5 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		情 報 工 学 専 攻	25 ()	25 ()	()	()	10 ()	()	12 ()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	()	()	
		物 理 工 学 専 攻	16 (2)	15 (2)	()	()	8 ()	1 ()	4 (1)	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	()	()	
		計(博士前期)	229 (21)	220 (19)	()	6 (2)	156 (14)	7 ()	32 (2)	1 ()	3 ()	()	()	9 ()	()	()	()	()	1 ()	()	5 (1)	()	()	
		材 料 科 学 専 攻	4 (1)	4 (1)	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	
		シ ス テ ム 工 学 専 攻	9 ()	8 ()	()	()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5 ()	3 ()	()	()	1 ()	()	1 ()	
		計(博士後期)	13 (1)	12 (1)	()	()	2 ()	()	()	()	()	()	()	2 (1)	()	()	()	5 ()	3 ()	()	1 ()	()	2 ()	
	生 物 資 源 学 科	資 源 循 環 学 専 攻	19 (7)	16 (5)	()	()	6 ()	()	2 (1)	()	2 (1)	()	()	()	()	2 (1)	2 (1)	()	1 (1)	()	3 (1)	()	()	
		共 生 環 境 学 専 攻	22 (4)	18 (2)	()	1 ()	7 ()	2 ()	3 (2)	1 ()	1 ()	()	()	3 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		生 物 圏 生 命 科 学 専 攻	49 (21)	46 (19)	2 ()	()	26 (11)	1 ()	3 (1)	()	2 ()	()	()	6 (4)	()	()	1 (1)	1 (1)	()	()	5 ()	2 (2)	()	
		計(博士前期)	90 (32)	80 (26)	2 ()	1 ()	39 (11)	3 ()	8 (4)	1 ()	3 (1)	()	()	9 (4)	()	()	3 (2)	3 (2)	()	1 (1)	5 ()	5 (3)	()	
		資 源 循 環 学 専 攻	4 (3)	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	
		共 生 環 境 学 専 攻	3 (1)	3 (1)	()	()	2 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 (1)	1 (1)	()	()	()	()	()	
	地 域 イ ノ ベーション 学 科	生 物 圏 生 命 科 学 専 攻	6 (1)	5 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	3 ()	2 ()	()	()	1 ()	()	()	()	
		計(博士後期)	13 (5)	9 (1)	()	()	2 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	5 (1)	3 ()	()	()	1 ()	()	()	
		地 域 イ ノ ベーション 学 専 攻 (博 士 前 期)	21 (6)	18 (5)	()	()	12 (4)	()	1 ()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	2 ()	()	
		計	21 (6)	18 (5)	()	()	12 (4)	()	1 ()	()	2 (1)	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	2 ()	()	
	地 域 イ ノ ベーション 学 科	地 域 イ ノ ベーション 学 専 攻 (博 士 後 期)	6 (2)	5 (1)	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	()	1 (1)	1 ()	
		計	6 (2)	5 (1)	()	1 ()	1 ()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	1 ()	1 ()	()	()	()	1 (1)	1 ()	
合 計		481 (110)	443 (92)	2 ()	8 (2)	213 (29)	10 ()	42 (6)	2 ()	8 (2)	()	()	23 (7)	()	1 ()	39 (13)	35 (12)	65 (25)	1 (1)	15 (1)	11 (6)	3 ()		

(注)博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

(注2)就職者には雇用形態1年以上かつ週30時間未満(短時間勤務)計1ヶ月以上1年未満の者も含む。

()内は、女子学生数を内数で示す。

Ⅳ 学生活動センター

令和5年度 活動報告

1 クラブ・サークル活動関係

毎月クラブ・サークル連絡会を開催し、各種注意喚起、連絡を行った。1月15日より新しい課外活動施設としてクラブハウスをオープンし、クラブ・サークルが活動できるように施設を整えた。3月13日の連絡会に合わせて卓球部（男子・女子）、医学部バドミントン部、医学部空手道部、陸上部（個人）、馬術部（個人）、卓球部（個人）、ヨット部（個人）、医学部バドミントン部（個人）、医学部空手道部（個人）が輝かしい成績を収めたことが評価され、三重大学課外教育活動等学生表彰を受けた。

2 課外活動施設の改善及び備品等購入助成

* テニスコート	人工芝部分張替修繕及び維持管理業務、テニスコートネットポスト
* グラウンド	ラインテープ更新、男子トイレ便器更新、多目的トイレ便器更新
* プール	濾過機年間点検及び修繕（前期）（後期）
* 第1体育館	床板部分修繕、ウォータークーラー修理、男子トイレ便器更新 消防設備修繕、トイレ照明器具取替
* 第2体育館	アリーナ内コンセント取替修繕、床板部分修繕
* 第2体育練習場	床板全面張替
* 医学部弓道場	鉄扉修繕
* クラブハウス	グランドピアノ新設、監視カメラ設置
* 永井トレーニングルーム	トレーニング機器保守点検、ランニングマシン修理
* 地域共創プラザ	AED 設置
* 第2食堂	消防設備修繕、空調設備修繕
* その他	草刈機修繕、

3 上浜キャンパス自転車登録制の実施

学内外での自転車マナー向上を目指し、上浜キャンパスに乗り入れる学生の自転車に登録シールを貼付する自転車乗り入れ登録制を引き続き実施した。また、学内における自転車の登録状況の調査を実施した。調査の結果、R5年度3月末の自転車登録台総数は、4,436台であり、前年度より300台増加している。

4 交通安全指導等の実施

例年苦情の多い、歩行者・自転車の通学マナーなどの問題について、春季4月25日、27日（午前9時45分～）、秋季10月17日、19日（午前9時45分～）の30分間、朝の通学ラッシュ時における地域の安全・安心のため、交通マナーの向上を図り、交通事故の防止することを目的として、近鉄江戸橋から三重大学正門までの街頭で学生への交通安全指導を実施した。学生総合支援機構教員、学務部職員、学生ボランティアが、津警察の協力を得て、横断歩道を渡る学生や、自転車による通学生に交通ルール遵守の注意喚起を行った。

令和5年度 クラブ・サークル一覧

● 体育系・全学

令和6年3月10日現在

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	陸上競技部	40	20	60	30	スキューバダイビングサークル	52	17	69
2	水泳部	17	12	29	31	天狗う（よさこいサークル）	17	33	50
3	硬式野球部	39	1	40	32	サイクリングサークル	5	0	5
4	準硬式野球部	26	4	30	33	ラインブレイク（釣り・アウトドア）	71	6	77
5	サッカー部	35	2	37	34	NEXT（ダンス）	27	62	89
6	ラグビー部	14	9	23	35	極津（よさこい）	0	21	21
7	アメリカンフットボール部	19	14	33	36	WILL（テニス）	50	32	82
8	馬術部	5	12	17	37	Wild Geese（アウトドア）	34	16	50
9	硬式テニス部	14	7	21	38	日本拳法部	6	0	6
10	ソフトテニス部	28	8	36	39	電気自動車研究会	7	0	7
11	男子ハンドボール部	20	5	25	40	Links（ソフトテニス）	14	12	26
12	バレーボール部	16	10	26	41	CHASE（ソフトテニス）	35	17	52
13	バスケットボール部	23	8	31	42	サバイバルゲームサークル	38	1	39
14	バトミントン部	13	2	15	43	ITF テコンドーサークル	24	17	41
15	卓球部	23	13	36	44	競技スキー部	15	15	30
16	ダンス部	12	32	44	45	げつバド	15	7	22
17	剣道部	23	11	34	46	MBC	12	2	14
18	空手道部	5	2	7	47	HOMESTEAL	19	0	19
19	少林寺拳法部	7	12	19	48	蹴る！マッハ（シューマッハ）	97	0	97
20	合気道部	5	3	8	49	三重大学モルックサークル つ Mö る	6	0	6
21	ワンダーフォーゲル部	4	3	7	50	三重大学学生フォーミュラチーム	14	0	14
22	自動車部	8	0	8	51	自転車競技部	16	2	18
23	弓道部	19	17	36	52	ユニバド	88	51	139
24	ヨット部	9	4	13	53	アーチェリー部	1	4	5
25	端艇部（カッター部）	5	2	7	54	ハイチュウ（バレーボール）	85	48	133
26	トライアスロン部	6	1	7	55	卓球サークル	12	0	12
27	応援団	20	27	47	56新規	健康増進ジョギングサークル Track	9	0	9
28	ジャグリアーノ（ジャグリングサークル、大道芸）	25	15	40	57新規	BREAK（ギネス記録）	4	5	9
29	ロボコンクラブ M3RC	13	1	14	合計（体育系・全学） 58		1266	625	1891

● 体育系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計	
1	医学部サッカー部	33	15	48	11	医学部バレーボール部	24	25	49	
2	医水野球部	18	6	24	12	医学部卓球部	28	24	52	
3	医学部陸上競技部	25	21	46	13	医学部剣道部	11	6	17	
4	医学部ゴルフ部	35	24	59	14	医学部弓道部	24	36	60	
5	医学部ラグビー部	14	15	29	15	医学部空手道部	16	18	34	
6	医学部ハンドボール部	24	19	43	16	合気道部	6	9	15	
7	医学部ソフトテニス部	19	19	38	17	医学部競技スキー部	15	15	30	
8	医学部硬式庭球部	31	18	49	18	医学部水泳部	7	15	22	
9	医学部バスケットボール部	18	15	33	19	医学部山岳部	30	17	47	
10	医学部バドミントン部	30	24	54	合計（体育系・医学部）		19	408	341	749

●文化系・全学

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	管弦楽団	10	36	46	30	Meiku [メイク (地域おこし)]	1	6	7
2	吹奏楽団	14	46	60	31	つくしんぼサークル(子供ボランティア)	34	24	58
3	ギターマンドリンクラブ	16	15	31	32	mil-poa (手芸サークル)	9	64	73
4	邦楽部	2	7	9	33	カフェ・サークル Le Lien	1	16	17
5	室内楽団	1	4	5	34	Bio Record (標本作製サークル)	64	40	104
6	写真部	30	18	48	35	計算研究会	15	4	19
7	合唱団	11	20	31	36	トラッパーズ	7	0	7
8	軽音楽部	3	4	7	37	aquri-M	4	1	5
9	ピアノ同好会 KLUB KLAVIER	78	62	140	38	三重創生ファンタジスタクラブ	13	0	13
10	表千家茶道部	24	17	41	39	忍者部	22	30	52
11	裏千家茶道部	4	10	14	40	ESD-SDGS	17	13	30
12	TRPG 同好会	2	12	14	41	DOT	3	5	8
13	創作活動サークル リカゲル	24	13	37	42	競技かるたサークル	9	9	18
14	囲碁・将棋部	18	21	39	43	YouTube サークル - ぼ nds-	7	23	30
15	HELLO FM!!	26	2	28	44	オカルト研究部	11	6	17
16	献血推進サークル“ヴァンパイア”	13	6	19	45	法学会	10	1	11
17	エレクトーンサークル 23-tow・three-	3	16	19	46	コスメサークル ROUGE	0	15	15
18	万葉旅行の会	4	8	12	47	魚食サークル Marisco	12	10	22
19	音楽サークル B b	5	4	9	48	学生団体 FORTUNE	16	16	32
20	かめっぷり	48	18	66	49	教職サークル『ぼーろ』	1	7	8
21	劇団アディスト (演劇)	18	17	35	50	バーチャルキャンパス (MUVC)	54	19	73
22	ねこサークル	10	24	34	51	Internationai Group	22	28	50
23	天文サークル SOLA	24	27	51	52	Organicrops	10	1	11
24	BBS (教育ボランティア)	39	38	77	53	書道サークル	2	11	13
25	ぶるさぁ。(アンザンブルサークル)	2	32	34	54	イリュージョン(ポケモンサークル)	5	0	5
26	Pioneer (アカペラ)	36	38	74	55新規	お茶サークル	0	3	3
27	アンビシャスカード (マジック)	20	29	49	56新規	KEEP OUT (世界のお祭り)	6	14	20
28	食農サークル 農らく	26	12	38	57新規	ぬいぐるみサークル・ぬいゆるり	0	6	6
29	てらこや (国際交流サークル)	2	2	4	合計 (文化系・全学) 57		868	930	1798

●文化系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計	
1	東洋医学研究会	11	18	29	8	小児科訪問ボランティアサークルぞくよん	6	28	34	
2	医学部軽音楽部	16	23	39	9	MUSH (Mie University Students Helper)	7	12	19	
3	Session サークル BAG	27	25	52	10	JAZZ BAR	4	2	6	
4	きゅうめい部	25	34	59	11	すずみえ(慢性疼痛・多職種連携勉強会)	5	4	9	
5	U-Cam	2	9	11	12	しまうま	5	4	9	
6	よき医療者をめざす学生研究会	33	18	51						
7	MIE-project	6	11	17	合計（文化系・医学部）		13	147	188	335

令和5年度クラブ・サークル数	141	男	女	計
		2689	2084	4773

1 相談・援助活動

(1) 各学部・研究科学務担当者向けアンケートの実施

昨年度、大学 HP「在学生向けページ」において「各学部の相談窓口」というバナー設置するにいたった（昨年度報告書参照）が、これに伴い、各学部窓口での相談対応の実際についての確認を行うために、各学部・研究科の学務担当者向けに「窓口での学生対応業務に関するアンケート」を実施することとした。その結果、それぞれの学部の事情を背景とした特徴的な回答内容が見られること、学部学務業務の負担軽減という観点からも検討すべき点があることなどが明らかとなった（別紙参照）。なお、本調査結果については、学生総合支援機構運営会議、および学生委員会の中でも報告、共有された。

(2) 学生対応・学生相談に関する座談会（相談会）の実施

上記（1）のアンケート結果を分析したところ、『対応困難な学生に苦慮している』『定期的に（学生なんでも相談室と）教職員とが顔合わせできるような機会を設けて欲しい』などの意見が見られた。これを受け、各学部・研究科の学務担当事務職員を対象に、対応困難事例へのより良い対応方法の検討を目的とした「学生対応・学生相談に関する座談会（相談会）」企画を実施することとした。また、各学部所属教員に対しても、本企画の紹介と希望があれば同席いただける旨お伝えいただくよう依頼し、広く学生相談に関心を持っていただく機会としても活用することとした。

当日は19名（うち事務職員（学務）11名、教員8名）の参加があった。検討事例については、2学部の学務からそれぞれ1事例ずつの提示があり、この2事例に基づいて、参加者が4～5名程度のグループに分かれて活発に質問や議論を行った。本会を実施することで、各部局学務担当、教員と相談室との関係作りが期待できることから、来年度以降も開催する方向で調整していきたいと考えている。

参加者内訳

	事務職員	教員	合計
人文学部	2	0	2
教育学部	1	1	2
医学部	2	5	7
工学部	1	0	1
生物資源学部	2	1	3
地域イノベ	2	0	2
共通教育	1	1	2
合計	11	8	19

(3) 来談者に関する統計 (令和5年3月末日現在)

	新規相談受付						案内	Co. による 継続面接	その他の 継続対応	総計
	教育	心理	進路	生活	その他	合計				
4月	4	3	1	2	0	10 (8.2)	86 (120.2)	29 (15.6)	41 (35.4)	166 (179.45)
5月	4	6	4	0	0	14 (12.8)	70 (55.8)	30 (22.4)	39 (41.0)	153 (132.0)
6月	5	3	1	3	1	13 (11.6)	49 (41.4)	36 (30.4)	70 (36.8)	168 (120.2)
7月	3	5	1	2	0	11 (10.8)	48 (36.2)	35 (30.4)	66 (42.8)	160 (120.2)
8月	2	3	0	0	0	5 (8.4)	35 (33.0)	29 (14.6)	34 (30.6)	103 (86.6)
9月	2	6	1	0	0	9 (9.6)	47 (40.8)	33 (24.8)	38 (50.8)	127 (126.0)
10月	4	2	1	1	0	8 (7.8)	40 (40.0)	41 (27.8)	51 (36.8)	140 (112.4)
11月	3	3	0	0	0	6 (11.8)	28 (34.0)	28 (28.4)	38 (41.2)	100 (115.4)
12月	6	5	1	1	0	13 (10.6)	45 (29.8)	30 (25.6)	35 (38.6)	123 (104.6)
1月	1	5	2	0	0	8 (9.2)	37 (45.2)	29 (30.2)	36 (58.2)	110 (142.8)
2月	3	7	0	0	0	10 (5.0)	33 (25.0)	29 (25.2)	29 (41.0)	101 (96.2)
3月	4	4	1	0	0	9 (6.8)	39 (33.6)	16 (26.2)	25 (45.0)	89 (110.4)
合計	41	52	13	9	1	116 (112.6)	557 (534.4)	365 (301.6)	502 (498.8)	1540 (1447.0)

※数字はいずれも延べ人数を示す。

※「Co.」は心理カウンセラーを指す。

※「新規相談受付」件数の「その他」は、心理テスト・箱庭療法体験、分類困難な相談等の総数を示す。

※「案内」は事務的な案内や比較的軽微な相談等、およびピアサポーターによる相談対応件数の総数を示す。

※「その他の継続対応」は、主に Co. による担当事例に関する面接室外のケースワーク活動等の総数を示す。

※カッコ内は、当該項目の直近5年間における平均値を示す。

【今年度の相談活動について】

総計（1540件）は、過去5年間の平均値より100件近く多かった。特にコロナ禍（R2、R3年度）以降、総計の数値は高く推移しており、引き続き同様の傾向がみられているものと考ええる。

「新規相談受付」数は、直近5年間の平均値よりやや高い数値であった。最高値であった一昨年度（134件）までには至らなかったが、月毎に見てみると、ほとんどの月で直近5年間の傾向に近い形で新規の対応ができていることも分かる。ただ、長期休暇中や長期休暇明けあたりの数字がやや減少する傾向にあるようなので、もう少しこの時期を狙った広報を意識してみたい。

「案内」（557件）も、過去5年間の平均値と比べやや多く見られた。こちらも、コロナ禍以降は特に高い数値を示す傾向が続いており、軽微な相談、質問にも応じてもらえるという「なんでも相談室」としての機能が学生らの中で定着しつつあるものと考ええる。

「Co による継続面接」については、直近5年間の平均値より高い数値であった。心理相談が昨年度より増えた影響が大きいものと考ええる。なお、同指標については、コロナ禍で一時期数字が減少していたが、一昨年度以降少しずつ増加傾向に転じるようになった（一昨年度263件 → 昨年度312件）。“ポストコロナ”の中で、学生らからは「カウンセリングルーム」としての面も今後さらに期待されていくであろうと考える。

(3) ピアサポーターによる活動

※「新入生なんでも相談会」【4月】

【活動内容】

主に新入生を対象とした相談活動。履修相談から大学生活の悩みまで幅広い相談に“なんでも”対応する企画である。今回は、対面相談活動とSNSを通じた相談活動の両体制で行った。ただ、共通教育におい

てカリキュラムに大きな変更があったことに伴い、各学部でかなり丁寧なガイダンスが行われていた模様で、利用者も例年より少なめ（昨年度は 95 名）であった。

【メンバーの関与】

合計延べ 10 名程度参加。

【企画参加者】

4/6（木）28 件。4/7（金）8 件。4/10（月）6 件。SNS（twitter）2 件。計 44 件。

*「学内のお散歩コースを歩こう」「たこ焼きパーティー」【4 月】

「お好み焼きを食べよう」【5 月】

【活動内容】

いずれも、主に新入生どうしの交流や大学生活への適応促進を目的とした企画であった。「学内のお散歩コースを歩こう」は、学内に設定されているトリムトレイルのコースを、道中に見られる様々な建物や施設を説明しながら新入生とともに散策するという内容であった。「たこ焼きパーティー」「お好み焼きを食べよう」は、いずれもピアサポートルーム内でホットプレートを囲んで、一緒に調理をしながら交流を図ろうという内容であった。

【メンバーの関与】

（お散歩コースを歩こう）コース下見を含め延べ 7 名が参加。

（たこ焼きパーティー）10 名が参加。（お好み焼きを食べよう）5 名が参加。

【参加者】

（お散歩コースを歩こう）5 名。（たこ焼きパーティー）5 名。

（お好み焼きを食べよう）5 名。

* YouTube ライブによる「ピアサポスタディ LIVE」の配信【7 月】

【活動内容】

前期の期末テストについて、テスト勉強や課題に取り組むモチベーションの向上、それらについての情報共有の場とすることを目的に、ピアサポートルームでメンバーが勉強している様子を配信し、画面越しで参加者も一緒に勉強に取り組む（コメント欄にて質問や相談も受け付ける）という活動を展開した。

【メンバーの関与】

合計で 8 名程度参加。

【参加者】

数名程度。

* ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）への参加【11 月】

【活動内容】

11 月 4・5 日に、「全国大学ピアサポーター合同研修会 ぴあのわ 2023 in 北海道」（幹事校：北星学園大学）が開催された。初日は「分科会」「ワークショップ」「各校の活動紹介（ポスターセッション）」「交流会」、2 日目は「全体会（講演等）」が行われた。

【メンバーの関与】

メンバー 5 人が参加した。

【参加者】

「ぴあのわ」には、本学を除くと、主催校の北星学園大学をはじめ、東京大学・東京工業大学・東京医科歯科大学、愛媛大学、京都大学、高知工科大学、神戸学院大学、神戸親和女子大学、筑波大学、札幌学院大学、札幌国際大学、東北工業大学、北海道大学、北見工業大学、名古屋大学、追手門学院大学、大阪大学、大阪経済大学、長崎大学、人間環境大学、明治学院大学の各ピアサポーターと教職員らが参加した。

その他、以下のような活動も行った。

* CPS/SA 資格取得に関する広報（キャリア系授業の中で）【4 月】

- * ボードゲーム交流会【5月】
- * 三重大学インターナショナルグループ(留学生支援団体)とのコラボ企画「Let's take a walk in Tsu city」【7月】
- * 名古屋大学ピアサポート団体(学サポ、air)との交流【9月】
- * アカデミックフェア 2022 におけるポスター発表(活動紹介)及び全体の進行役の担当【11月】
- * 「ボードゲームカフェ」の開催【1月】
- * 年間 32 回(3月22日現在)のランチミーティング

2 教育・広報活動

(1) 教育活動

授業の担当(いずれも鈴木によるもの)

教養教育	前期	「ピアサポート実践」※副担当に風間惇希講師(障害学生支援センター)
教養教育	後期	「こころのサポート」
教養教育	後期	「学生生活支援実践」
教養教育	後期	「ピアサポート実践」※主担当は風間惇希講師(障害学生支援センター)

(2) 広報活動

①教職員研修(FD・SD)

- ・生物資源学部資源循環学専攻森林資源環境学講座 ミニレクチャー
「発達障害のある学生の主な特徴」
鈴木が講師を担当【令和5年7月19日】

②広報

- ・大学ホームページを用いたピアサポート活動に関する広報
- ・ユニバ(全学配信メール)を活用した学生に対する相談室広報

3 研究・研修・講演・地域連携

(1) 研究

- ・日本学生相談学会第41回大会 研究発表の部において鈴木が座長を担当。
【令和5年5月14日-15日：昭和女子大学】

(2) 研修(および学生相談に関する情報収集)

- ・第61回全国学生相談研修会(主催：日本学生相談学会)に鈴木が講師として参加。
【令和5年11月10日：オンライン、18-19日：新宿NSビル】
- ・日本ブリーフサイコセラピー学会 2023年度ブリーフサイコセラピーセミナー「(4)ポリヴェーガル理論をブリーフセラピー的に活かす」に鈴木が参加。
【令和5年11月26日：オンライン】

(3) 講演・地域連携

- ・三重県立看護大学 ハラスメント防止等に係る研修会(学生対象)を鈴木が担当
テーマ「大学生とハラスメント」
【令和5年4月5日】

令和 5 年度 学生相談センター スタッフ

センター長	長屋 祐一	(教育(学生総合支援)担当学長補佐：生物資源学部 准教授)
副センター長	鈴木 英一郎	(学生総合支援機構 講師)
兼任教員	福祿 恵子	(医学部 教授)
	宮崎 多恵子	(生物資源学部 准教授)
カウンセラー	藤川 和	(非常勤)
	高崎 順子	(非常勤) ※ 6 月まで
	近藤 有加里	(非常勤) ※ 7 月から
	藤野 京華	(非常勤)
	林 真寿美	(非常勤)
インターカー	浮田 めぐみ	(事務補佐員)

窓口での学生対応業務に関するアンケート 回答結果まとめ

①窓口での学生対応の範囲（相談内容の幅と量）

「窓口での学生対応業務について、貴チームでは以下のような内容は（学生対応業務全体の中で）どの程度扱っておられますか？」

【授業や履修のこと】

「かなり多い」…5 学部 「時々ある」…2 学部 「少ない」「ほとんどない」…該当なし

【教員とのトラブル】

「かなり多い」…該当なし 「時々ある」…2 学部 「少ない」…3 学部 「ほとんどない」…2 学部

【進路・就職】

「かなり多い」…該当なし 「時々ある」…1 学部 「少ない」…4 学部 「ほとんどない」…2 学部

【課外活動】

「かなり多い」…1 学部 「時々ある」…1 学部 「少ない」…4 学部 「ほとんどない」…1 学部

【大学外での生活に関すること】

「かなり多い」…該当なし 「時々ある」…3 学部 「少ない」…3 学部 「ほとんどない」…1 学部

【心理的不調】

「かなり多い」…該当なし 「時々ある」…2 学部 「少ない」…4 学部 「ほとんどない」…1 学部

※その他（学部から「特徴的な内容」として挙げられた意見）

- ・「授業や履修など修学に関すること」は、年度初めは履修申告に関する質問・相談がかなり多くある。その後は、教育的インターンシップの認定手続きに関すること（要件や提出書類等）が多い印象で、履修や単位修得に関することが次点となる印象。
- ・「日常に関すること」は、落とし物・自転車登録申請の問い合わせがほとんど。
- ・「進路、就職に関すること」は、休学や退学の相談が主であり、就職に関する相談はほとんどない。
- ・教員免許に関する問い合わせが多い。また、それに伴う証明書に関する質問（電話等）や窓口対応も多い。
- ・窓口に来ず、メールや電話で問い合わせを受けることが多い。
- ・学生本人からではなく、学生に関することで、教員や実習先機関、親などからの電話相談が多い。
- ・大学院においては、ほとんどの学生が社会人であり、学務課職員の勤務時間中は学生も勤務中であるため、メールでの問い合わせが多い。
- ・学生が関係している懲戒案件が他学部より多い傾向にある。
- ・留学生対応各種、生物資源活動タイムでの対応
- ・TA に関する質問等を受けることが時々あります。
- ・入試に関する質問を受けることが時々あります。
- ・休学や長期履修に関する質問を受けることが時々あります。

②業務全般における学生対応業務のエフォート

「貴チーム（学務担当）で担当されている全ての業務を 100%とした場合、そのうち窓口での学生対応業務にかかるエネルギーの割合（%）はどのくらいでしょうか？またその理想的な割合はありますか？」

【学生対応業務にかかるエネルギーの割合（現状）】

5%から 80%までの数値で回答があり、学部によってばらつきがあった。また、時期や業務内容によってエネルギーの割合が変化する旨の回答もあった。

例）4～5 月初旬は、履修登録や授業に関する質問が多く「50%」（「80%」という学部もあった）。

11 月から 3 月は、卒業論文や休学の相談以外はあまり対応はなく「5%」。

教員や保護者対応を含めると、エネルギーの割合が高くなる。など

【理想的な割合】

「現状維持」、「意見なし」とする回答が多かった。

その他主な意見として、

- ・業務にさけるリソースが減っている中では、本当に窓口対応を必要とする学生への対応だけで済む形が理想。
- ・他の業務に専念するため、なるべく窓口業務は少ない方がよい。
- ・問合せが多い内容については、Q&A を作って Moodle コース等に掲示し、そちらを確認するよう促す。
- ・気軽に分からないことを質問しに来ることができる現行の雰囲気は、今後も継続していきたい。
- ・4 月当初の共通教育における学生対応にかかるエフォートは、各学部における新入生ガイダンスの内容によるところが大きい。

などの回答が見られた。

③学生対応にまつわる苦労

「窓口での学生対応業務に対して、貴チーム全体の雰囲気としてはどのくらい『苦労』と感じておられるでしょうか。」

自由記述式項目において、以下のような回答があった。

- ・主に年度初めの履修申告に対する一時的な相談増加や、特殊ケースへの個別対応等で苦労を感じています。
- ・体調不良者の対応では、医療機関を受診する場合の送迎の対応では、医療的なことと安全面で不安を感じます。
- ・現状での負担としては、チーム内でなんとか理解・許容できる程度に収まっていると考えています。
- ・学生さんの皆さんからの相談内容が多様かつ複雑になりつつあり、懇切丁寧な対応が良いのか、学生自身が考え抜くような自主性を重んじるのか、その目の前にいる学生のことを考えると、どこまで支援をしてよいのか迷うときがあります。
- ・もともと頭の良い学生たちなので、自分の理論を振りかざし、電話口での対応に 30 分以上拘束されるなどのことがある。
- ・メール等で通知したことを、自分の都合よく解釈したり、へりくつを言って有耶無耶にする学生がいる。
- ・提出物の催促メールに対してリアクションを取らない。
- ・学生からのメール問合せ数も多いため。その場で回答できず、確認・調整が必要な問合せが多いため。
- ・学生対応業務に限ったことではないですが、各部局への対応を平等にすることに苦心しています。各部局の望む対応をできかねる場合もありますが、ご理解をいただきたいです。

④全学学生支援組織（学生総合支援機構の各センター）との連携に関する要望

自由記述式項目において、以下のような回答があった。

- ・障害学生の人数・相談件数が増えてきており、機構の方も人員が少ない中、対応してくださっているのですが、部局のスタッフは、障害学生対応の専門家ではなく、また、訴訟なども多い時世であるため、どう対応するべきか判断しかねることが多いです。部局の障害学生対応をマネジメントし導く役割を担ってくださるとありがたいです。
- ・学生への相談内容の周知内容を再検討いただきたい。（履修相談は除くなど。）インターカーの精度の向上、人数の増加などの対応をお願いしたい。
- ・次の⑤とも関連するが、障害学生支援センターと連携して進めている「障害学生の合理的配慮」についての、各期の授業開始時に授業担当教員へ配慮依頼事項をメールにて依頼しているが、「周知が遅い」とのご意見を受けることがある。これについては、障害学生支援センター、各部局との連絡も必要となってくるため、授業開始に間に合わないこともある。そのことについて、全学学生支援組織より関係各位に対し理解をいただくよう発信いただけると助かります。（このことにつきましては新教務基幹システム内でも検討している内容のため、新システムへ移行後には現状よりスムーズに発信できるかと思います。）

⑤学生対応業務について、現在困っていることや改善の必要性を感じていること

自由記述式項目において、以下のような回答があった。

- ・学生の自転車登録の申請・管理について、申請を web 化する等、省力化を検討してほしい。
（現在の紙での申請だと、書類上のミケモレが発生しやすく、後からの検索・抽出もしづらく、管理上の負担が大きい。）
- ・時間外（17：15以降）の窓口業務を何時まで行うか（授業は、5コマ目は17：50までである）。
- ・雨天時の学生への傘の貸出し、昼食時の箸忘れ、授業時の筆記用具忘れ等、どこまで学務が担当しないといけないのか、対応の基準がなく判断に迷う窓口対応業務がある（サービスで対応してもよいのかしなくてもよいのか）。
- ・HPで質問したいことを、「キーワード検索」や「チャット質問」ができれば便利になると思う（例：「先生の連絡」、「印刷できる場所」、「自転車乗入れ」、「教室借用」等）。現行のHP検索では、キーワード検索をしても、必要な情報にたどり着けないことが多い。
- ・ひょっとすると既にあるのかもしれませんが、学生便覧8頁のような、もう少し担当内容を詳細にした各担当窓口の連絡先一覧があればありがたいとの意見がありました。経験が浅い人でもこの表を見れば、学生に適切な相談先を案内できるようなものをイメージしています。もしそのような表があれば、電話交換にも渡しておけば、転送ミスも防げるように思えますがいかがでしょうか。
- ・専門知識のある教職員がいないため、「心理的/精神的な不調に関すること」など、対応に困難さを感じる。
- ・初対面では相談しづらいため、定期的に、教職員との顔合わせの場を設けていただけると、連携が取りやすくなると思われる。
- ・学部所属の教員より共通教育の単位について、卒業に必要な単位が揃っているかが分からないため確認してほしいと依頼があることがある。卒業に必要な単位等の確認・指導については学生の所属する各部局において管理いただきたい。
- ・新カリキュラム移行に伴い開始した副専攻制度や、環境に関する科目の新設等共通教育の在り方が変わってきておりますので、各部局におかれましてはより一層共通教育へのご理解を深めていただけると助かります。

VI 障害学生支援センター

令和5年度 障害学生支援センター活動報告

1 障害等のある学生に関する相談支援

表1に令和5年度の障害等のある学生に関する相談件数及び対応人数を示した。相談件数は547件であり、延べ人数は891名、実人数は216名であった。そのうち、教職員からの相談件数は271件、延べ人数は443名、実人数は98名であった。障害等のある学生の延べ人数は303名、実人数は75名であった。

表1 令和5年度 障害のある学生に関する相談件数及び対応人数

	相談対応件数				相談者延人数				相談者実人数			
		学生	教職員	その他		学生	教職員	その他		学生	教職員	その他
4月	102	61	43	38	171	61	71	39	66	22	27	17
5月	39	14	21	10	60	14	36	10	37	10	23	4
6月	45	13	31	14	74	13	47	14	29	5	18	6
7月	35	16	18	6	54	16	32	6	28	10	15	3
8月	18	9	5	6	19	9	5	5	14	6	4	4
9月	55	36	26	15	88	36	37	15	40	17	16	7
10月	43	23	20	2	65	23	40	2	34	7	25	2
11月	33	22	16	4	46	22	20	4	21	9	10	2
12月	29	19	21	6	55	19	30	6	23	8	13	2
1月	32	18	13	5	38	18	14	6	23	8	11	4
2月	34	18	20	4	50	18	27	5	22	8	10	4
3月	82	54	37	31	171	54	84	33	65	25	24	16
合計	547	303	271	141	891	303	443	145	※216	※75	※98	※43

※実人数は、令和5年度の年間実人数であり、合計で示さない。

※学生：障害のある可能性を考慮しながら対応している学生を含む。

※その他：保護者、学外機関担当者

2 三重大学における障害学生支援の機能強化・拡充

- ・学内外の連携強化や障害学生支援に関する理解啓発のため、障害学生支援に係る e-Learning を実施し、教職員の参加率は評価指標である 80%を超えた (84.0%)。
- ・京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門准教授の村田淳先生を招聘し、「合理的配慮を実施するにあたってのポイント」というテーマで障害学生支援セミナー2023を開催した。セミナーの参加者は53名(学内49名、学外4名)であった。セミナー後には、第4回障害学生支援調整会議に村田先生にもご出席いただき、事例報告に対するコメントや各学部の課題等に関する助言を頂いた。(11月13日)
- ・ATライブラリーに係る各種支援ツールの整備を行い、支援ツール一覧冊子の作成やホームページの改修等を行った。
- ・次年度より運用を予定している多目的スペース(障害のある学生等が学習や休憩、交流等を行うことのできる部屋)の整備を行った。
- ・障害学生支援センターと各部局選出の監督者及び学務担当係長等によって構成される「障害学生支援調整会議」を5回実施した。全学の支援状況に関する情報交換をはじめ、合理的配慮の実施状況に関するモニタリング調査の結果報告および事例の蓄積を行った。
- ・『国立大学法人三重大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程』及び『三重大学における障害を理由とする差別に関する紛争解決委員会規程』、『三重大学における障害を理由とする差別の解消に関する第三者委員会規程』に則り、「三重大学における障害を理由とする差別の解消に関する第三者委員会」を

開催した。三重大学における障害学生支援体制について情報共有をした後、委員会運営方法等についての協議を行った。(2月27日)

3 学内関係部局および外部関係機関等との情報交換の推進

- ・東海地区にある国公立大学の障害学生支援担当者が集う「第11回東海地区障害学生支援フォーラム大会 in 桜花学園大学」に参加した。(9月2日)
- ・人文学部のFD講演会にて、「障害学生支援の基礎知識とQ&Aー合理的配慮の理解を中心にー」というテーマで研修を行った。(9月13日)
- ・高田短期大学のFD・SD研修会にて、「大学における障害学生支援について」というテーマで研修を行った。(9月5日)
- ・四日市看護医療大学のハラスメント対策研修会にて、「障害学生支援の基礎知識」というテーマで研修を行った。(3月15日)
- ・障害学生支援センター、キャリアセンター、学生相談センター、ハローワーク津、三重県自閉症・発達障害支援センター、三重県障害者職業センター、若者就業サポートステーションみえの担当者が参加する「障害のある学生の就職支援に関する連携会議」を2回実施し、障害のある学生の就労支援に関する現状共有及び支援に関する意見交換を行った。(9月26日、2月1日)
- ・アクセシビリティリーダー育成協議会の第57～60回総会が開催され、今年度のアクセシビリティリーダー育成プログラムに関する検討や参画する各大学等の支援状況に関する意見交換を行った。(6月16日、9月22日、12月22日、3月6日)

4 ACS 学生委員会に所属する学生サポーターの支援技能を養成

- ・共通教育科目「現代社会理解実践2(障害学生支援実践)」の授業を開講した。受講者は35名であった。
- ・ACS学生委員会を組織し、10名の学生が委員会活動に参加した。
- ・ACS学生委員会や障害支援に関する情報を発信する壁新聞企画「ACSのねえ知ってる?」の第6号(7月)を作成、発行した。
- ・学生が悩み等をノートに書き込み、ACS学生委員会のサポーター学生がその投稿に答えていく企画「お便りノート」を実施した。今年度より、これまでの設置場所であった総合研究棟Ⅱ1階に加え、図書館1階エントランスに机を設置し、企画運営を行った。
- ・障害支援に関する知識習得を目的として、アクセシビリティリーダー育成協議会が提供するアクセシビリティリーダー育成プログラムのオンライン講座を受講した。

5 その他

- ・障害学生支援センター教員が、東海地区障害学生支援フォーラムの役員として運営に携わった。今年度本学で開催された「東海地区障害学生支援フォーラム第11回大会 in 桜花学園大学」の企画検討や、各大学での支援状況及び課題に関する意見交換を行った。

VII SA (スチューデント・アシスタント)

SA (スチューデント・アシスタント) の 取り組みをふりかえって

－ SA として活躍する先輩から学ぶ －

SA (Student Assistant) の取り組みとは、スチューデント・アシスタント資格を取得した学生を活用する学生支援施策である。本学では、仲間が仲間を支援するというこの相互支援の取り組みの本質は、“大学という一つの社会の中で様々な体験をすることは自身のキャリア（生き方）に寄与する”という観点から「キャリア・ピアサポーター」と呼称し、学生個々人のその人らしさを活かした、ピア（仲間）を支援することを推進している。キャリア・ピアサポーターには、キャリア・ピアサポート（CPS）資格とスチューデント・アシスタント（SA）資格が設けられている。学生が支援に関連する様々な知識・技能・態度を高めることのできる講義・演習を一定数受講し、研修を受講することで、これらの資格を取得できるという資格教育プログラムが設置されている。

SA 資格を取得するまでに、学生は、他者に対する学生支援（ファシリテーション）を実践的に学ぶ講義・演習科目（学習支援実践等）を必修科目として、単位取得しなくてはならない。更に SA となる学生の力量を保証するため、e-learning 研修の受講及びグループワークへの参加・面談を経て認定される。SA として、ただの授業準備や配布物の配布補助ではなく、受講生のグループディスカッションへの参加を促すファシリテーションや、受講生の学びをより深めるための支援が望まれている。本学では、教職員ではなく、学生同士、先輩だからこそできる学習支援、学生支援を目指しているのである。

学習支援実践という授業科目は、他者に対する学習支援実践を学びながら、先輩 SA の学習支援やサポートを受けるといった構造になっている。先輩 SA からの学習支援やサポートを受けながらも、その支援の方法や内容等をモデルとして学ぶことができるのである。

令和 5 年度は、学内の先生方のご理解のもと 8 科目で SA20 名を活用した授業が行われた。総勢 20 名の SA を活用することによる授業等の受講生への効果、さらには SA 自身への効果を先生方が感じてくださっていることを願いたい。

● Table1 令和 5 年度 SA 採用者及び SA 活用授業等

期間	授業名	学部	学年	人数
前期	こころのサポート	人文学部	3 年	1 名
		人文学部	4 年	1 名
	学習支援実践	人文学部	3 年	1 名
		人文学部	4 年	1 名
	ピアサポート実践	工学部	3 年	2 名
	ビジネスキャリア入門	人文学部	3 年	1 名
	キャリア教育入門	人文学部	3 年	2 名
後期	障害学生支援実践	人文学部	3 年	1 名
	ピアサポート実践	人文学部	4 年	1 名
		人文学部	3 年	1 名
	学生生活支援実践	人文学部	3 年	2 名
	こころのサポート	人文学部	3 年	1 名
		工学部	3 年	1 名
	ビジネスキャリア入門	人文学部	3 年	1 名
	留学生支援実践	人文学部	3 年	1 名
	キャリア教育入門	人文学部	3 年	1 名
		教育学部	3 年	1 名
合計				20 名

\\ これからの人生に役立つスキル、身につけてみませんかー!! \\

キャリア・ピアサポート (CPS) 資格取得ガイド

2023年度
入学者用

STEP ① キャリア・ピアサポート資格を知る

三重大学では「学生自身の活動を通じた学生支援」を積極的に奨励する「キャリア・ピアサポーター」養成のため、所定の科目を履修し、研修を受けた学生に対して、学内資格である『キャリア・ピアサポート (CPS) 資格』を認定しています。

『キャリア・ピアサポート (CPS) 資格』取得者は

- 学生生活についての相談活動
- 学生同士の交流、大学活性化又はキャリア支援を目的としたイベントの企画実施
- 就学支援活動の企画実施
- 学内機関又は学生団体とのコラボレーションの企画実施

といった三重大学の活性化にもつながる様々な活動に参加することができます！

また、自ら行動する力が身につき、学部・学年を越えた仲間と出会うきっかけになります！

皆さんの申請、お待ちしております！



STEP ② 資格取得の事前申請をする

資格事前申請方法

Moodle『キャリア・ピアサポート資格取得コース (2023年度)』のコース登録が必要になります。

※コース登録された場合、資格申請の為に、成績及び単位取得状況について確認されることに同意したとみなさせていただきます。

コース登録はこちら



STEP ③ 所定の科目を履修・研修を受ける

資格取得のためには、下記必須科目の履修と研修を受ける必要があります。

必修科目

- キャリア教育入門



研 修

- ① e-learning受講 (30分) + 確認テスト
- ② グループワーク (90分程度) に参加・発表



認定された方に資格認定証を授与！

資格認定者の発表は、前期末申請については10月上旬、後期末認定については次年度4月上旬を予定しています。



履歴書に書ける資格です。

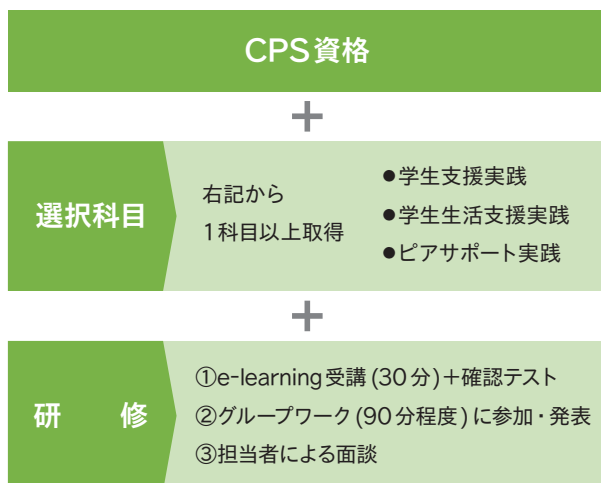
資格を取得し、活動した話は就職活動の面接でも活かすことができます！

裏面も要チェック ▶

SPECIAL
STEP!!

キャリア・ピアサポート (CPS) 資格を取得した学生は **スチューデント・アシスタント (SA) 資格 に挑戦できます!**

資格取得のためには、下記必須科目の履修と研修を受ける必要があります。



**スチューデント・アシスタント資格取得者にも
資格認定証を授与します!**

資格取得を通して社会人としての「実践力」を身につけよう!

大学までの勉強では知識の獲得が最も重視されますが、実際に社会に出てみれば、知識量だけでなく、獲得した**知識に基づいた実践のための応用力が求められる**ようになります。しかしながら、こうした能力を身につけるためには、ただ漫然と授業を受けるだけではなく、学生時代に様々な取り組みに主体的に参加することで、経験を通して積み重ねていかなければなりません。三重大学では、「生きる力」の養成や自身のキャリア形成につながる様々な授業科目を用意しています。また、所定の科目を履修し、研修を受けた学生に対しては、「**キャリア・ピアサポート (CPS) 資格**」、および「**スチューデント・アシスタント (SA) 資格**」を認定します。

「キャリア・ピアサポート (CPS) 資格」を取得した学生は、学生が同じ学生を横の関係で支援する「なんでも相談活動」や、各種修学(授業)支援、アカデミックフェアやキャリアイベントといった各種イベント企画、また「スチューデント・アシスタント (SA) 資格」を取得した学生は、授業補助等で教員・学生のサポート役を担うなど、三重大学の活性化にもつながる様々な活動に参加してもらうことで、その力を発揮することができます。※ さらには、こうして学内の様々な現場を「職場」として体験することを通して、就職活動に不可欠な“対人関係能力”や“コミュニケーション能力”といった能力を身につけていくこともできるでしょう。

あなたも、「キャリア・ピアサポート (CPS) 資格」「スチューデント・アシスタント (SA) 資格」を取得して、
一緒に三重大学を盛り上げていきませんか。

そして、**あなた自身の「実践力」を伸ばしていきませんか。**

※ これらの活動は、学内における様々なピアサポート団体によって行われている活動の一例です。

キャリア支援チームは
保健管理センターの
近くだよ!

三重大学学生支援機構
キャリアセンター(キャリア支援チーム)
総合研究棟Ⅱ 1階 開室時間: 平日8:30~17:15

TEL 059-231-5396

E-mail syusyoku-ce@ab.mie-u.ac.jp

<https://www.mie-u.ac.jp/life/career/students/cps.html>



学生支援サミット 2023 実施報告書

三重大学 学生総合支援機構
学生活動センター

目次

1. はじめに … p. 2

2. 学生支援サミット 2023 概要 … p. 3

- 趣旨
- 目的
- 当日の内容
- 主催
- 日時
- 開催場所
- 参加者
- 当日のスケジュール

3. 当日の参加状況 … p. 4

- 学生・教職員の参加状況
- 当日のグループ構成

4. 当日の流れ … p. 5

- 進行スライド
- 講演資料

5. 各グループの活動報告 … p. 15

- グループ①：人文学部グループ
- グループ②：教育学部Ⅰグループ
- グループ③：教育学部Ⅱグループ
- グループ④：医学部グループ
- グループ⑤：工学部グループ
- グループ⑥：生物資源学部グループ
- グループ⑦：教育&医学部グループ
- グループ⑧：工学&生物資源学部グループ

6. 資料 … p. 21

- 学生支援サミット 2023 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事

1. はじめに

三重大学では、「学生支援サミット」と名付けたイベントを毎年開催しています。これは、今後の三重大学の学生支援のあり方に関するビジョンを、学生・教員・職員がともに描き、共有し、それに基づいて三重大学の今後の学生支援のあり方を検討する目的で、平成 24 年度より始められました。毎回、テーマを設定し、参加者はグループに分かれて意見を出し合い、それを全員で共有します。

本年度の「学生支援サミット 2023」は、テーマを「ポストコロナ期のメンタルサポートについて～三重大生が充実したキャンパスライフを送るには～」に設定し、ポストコロナ時代に移行する中での大学生のメンタルサポートのあり方について、学生と教職員が主体的に検討する機会として、本サミットを開催しました。今回は、対面を基本とした「顔の見える大学生活」に戻りつつある一方、対面での大学生活への戸惑い等、大学生のメンタルヘルスに関する課題がある中、三重大学の現状を共有しつつ、三重大生が充実したキャンパスライフを送るための企画やアイデアについて、学生と教職員が協働してディスカッションを行うというイベントを開催しました。本報告書は、この活動と成果をまとめたものです。

サミットにおいて提言された意見やアイデアを多くの方に知っていただき、学生生活環境の充実をはじめ、三重大学の発展の寄与につながる資料としてご覧いただけることを心よりお願い申し上げます。

また最後となりますが、学生支援サミットの企画・運営に関わりご協力を頂いた皆さま、当日参加し貴重なアイデアを出して頂いた学生・教職員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

学生総合支援機構
学生活動センター

2. 学生支援サミット 2023 概要

○ 趣旨

年に一度、三重大の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、テーマを「ポストコロナ期のメンタルサポートについて～三重大生が充実したキャンパスライフを送るには～」に設定し、ポストコロナ期におけるメンタルサポートや三重大生のキャンパスライフの充実化に向けたアイデアについて考える機会として、サミットを開催した。

○ 目的

ポストコロナ時代に移行する中での大学生のメンタルサポートのあり方について、学生と教職員が主体的に検討する機会とする

○ 当日の内容

まずは全体として、学生支援サミットの概要や当日の流れ等について説明を行った後、『ポストコロナ期におけるメンタルヘルス』について、保健管理センターの谷井久志先生にご講演いただいた。その後、話題提供の内容等を踏まえて、グループごとに討論・検討してもらうトークテーマを提示した。

続いて、学生及び教職員で構成されたグループに分かれて、提示されたトークテーマに関するディスカッションを行った。ディスカッションの中で出た意見やアイデア等は、グループごとにパワーポイント資料にまとめ、各グループからの報告発表を行った。最後に、報告内容を踏まえての全体でのディスカッションが行われた。

○ 主催

三重大 学生総合支援機構・学生活動センター

○ 日時

2023 年 9 月 28 日（木）13:00 ～ 16:00

○ 開催場所

三重大学地域イノベーション研究開発拠点 3 階 地域イノベーションホール

○ 参加者

学生については、各学部への参加依頼等を通して募集した結果、合計 44 名の参加エントリーがあった。教職員については、学生総合支援機構や学務部等の関係教職員、合計 18 名が参加した。

○ 当日のスケジュール

13:00～13:10（10 分）	開会の挨拶 三重大学学長 伊藤正明
13:10～13:40（30 分）	【導入】 ・学生支援サミットの概要や活動内容の説明（担当：風間） ・講演『ポストコロナ期におけるメンタルヘルス』（保健管理センター教授 谷井久志先生）
13:40～14:40（60 分）	【各グループでの活動内容】 ・メンバー間の自己紹介 ・トークテーマに関するディスカッション ・全体報告に向けた内容のまとめ
14:40～15:50（70 分）	【活動報告と全体での質疑応答】 ・各グループでの活動報告（5～10 分×8 グループ） ・全体での質疑応答
15:50～15:55（5 分）	総括コメント 教育担当理事・学生総合支援機構長 鶴原清志
15:55～16:00（5 分）	閉会の挨拶 学生総合支援機構副機構長 富樫健二

3. 当日の参加状況

○ 学生・教職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生 44 名、教職員 18 名の合計 62 名であった。参加学生の所属学部の内訳は、人文学部 6 名、教育学部 14 名、医学部 7 名、工学部・工学研究科 9 名、生物資源学部・生物資源学研究科 8 名であった。

○ 当日のグループ構成

当日は以下の 8 グループに分かれてディスカッション及び全体発表が行われた。

グループ①：人文学部グループ（人文学部学生 6 名、教職員 1 名）

グループ②：教育学部Ⅰグループ（教育学部学生 5 名、教職員 1 名）

グループ③：教育学部Ⅱグループ（教育学部学生 7 名、教職員 1 名）

グループ④：医学部グループ（医学部学生 5 名、教職員 1 名）

グループ⑤：工学部グループ（工学部・研究科学生 6 名、教職員 1 名）

グループ⑥：生物資源学部グループ（生物資源学部学生 5 名、教職員 1 名）

グループ⑦：教育&医学部グループ（教育学部・医学部学生 5 名、教職員 2 名）

グループ⑧：工学&生物資源学部グループ（工学&生物資源学部・研究科学生 6 名、教職員 2 名）

4. 当日の流れ

○ 進行スライド

当日は以下のスライドの通りに進行を行った。

2023.9.28 (木)
13:00~16:00

学生支援サミット2023

三重大大学

ポストコロナ期のメンタルサポート
～三重大学生が充実したキャンパスライフを送るには～

主催：三重大大学 学生総合支援機構・学生活動センター

開会の挨拶

三重大大学学長 伊藤 正明

タイムスケジュール

13:00～13:10 開会の挨拶
13:10～13:40 学生支援サミットの活動内容の説明
『ポストコロナ期におけるメンタルヘルス』
保健管理センター 谷井 久志 先生
トークテーマの発表
13:40～14:40 各グループに分かれてディスカッション
14:40～15:50 活動報告と全体での質疑応答
15:50～15:55 総括コメント
15:55～16:00 閉会の挨拶

※上記のタイムスケジュールは、適宜調整する場合があります。

学生支援サミットの活動内容の説明

学生総合支援機構
障害学生支援センター 講師 風間 惇希

「学生支援サミット」とは

- 学生・教員・職員がともによりよい三重大大学の創出に向けて設定されたテーマについて一緒に考え、ディスカッションを行うイベント
- 今年度のテーマは『ポストコロナ期のメンタルサポートについて～三重大学生が充実したキャンパスライフを送るには～』

★本サミットの活動成果や提言されたアイデアは、今後のよりよい三重大大学に向けた取り組みに活用していきます
実際に、近年のサミットでのアイデアが採用された事例あり

今回のテーマの企画趣旨

- COVID-19が5月から2類→5類に引き下げ
- 対面を基本とした「顔の見える大学生活」に戻りつつある
- ただし、コロナ禍への順応に時間がかかったように、ポストコロナの生活への順応も時間はかかる。大学生の悩みや問題にも影響。
- 対面での大学生活への戸惑い
課外活動への参加や友だち作り…人間関係へのついていけなさ
環境の変化に悩みメンタルの不調を訴える学生
物価高・経済困窮で生活に困る学生 などなど…
- 大学生のメンタルヘルスの現状について共有し、三重大学生がより生き生きと充実した学生生活を送るためのアイデアを創造しよう！

【参考情報】

三重大大学学生支援機構 大津、松阪、三重大及び近畿大学等10校に於ける障害のある学生の生活支援に関する実態調査（平成28年度～令和2年度）

『ポストコロナ期におけるメンタルヘルス』

保健管理センター
教授 谷井 久志 先生

今回の学生支援サミットの活動内容

- COVID-19の感染拡大が一旦落ち着きを見せ、コロナ禍以前のキャンパスに戻りつつあるが、メンタル面の影響は残っているし、ここからもう一度、新しい時代の大学環境を作っていくことになる
- ここで、三重大生のニーズ（困っていることや悩み、希望）とは何かを踏まえ、三重大生が充実したキャンパスライフを送る”には何が必要かについて、考えてみてはどうか。
そのアイデアは、メンタルヘルスの向上にもきっと貢献するでしょう！
- そこで本サミットでは、ポストコロナ期を生きる三重大生のニーズをキャッチし、それに応えられるような企画やアイデアを学生と教職員が協働して考える機会とします。

今回のトークテーマ

- **【三重大生の心理的ニーズとは】**
ポストコロナ期の今、三重大生が求めていること・困っていることはなんだろう？ 学業？/人間関係？/就活？/経済面？ etc.
- **【三重大生のニーズに応える企画アイデア】**
その三重大生のニーズに応えること（三重大生の困りごとを解決したり、より充実した大学生活を送れるようになる企画や環境設備など）とはなんだろう？
- **【企画アイデアのアピールポイント】**
その企画アイデアによって、どのような効果が期待できるかイチオシのポイント！

企画アイデアを考える際に大事なこと

- ポイント①**
考える企画（単発の企画/継続的な企画）や環境作りは、教職員だけでなく、ぜひ学生の皆さんも積極的に関わられるような（みんなと一緒に作っていきけるような）企画が◎
- ポイント②**
構想の段階から、考えている皆さん自身がワクワク・楽しい気分になれる！、「こんなあったらいいなあ!」と本気で思えるような内容が◎◎

今回の学生支援サミットの活動内容

- 8つのグループに分かれて、三重大生のメンタルヘルスの保持・向上に関するトークテーマについて話し合ってもらいます。



今回の学生支援サミットの活動内容

- 【各グループでの活動】(13:45~14:45の60分)
- グループメンバーではまず自己紹介！
- 主な司会・書記を決めて、トークテーマについて話し合う
- ※ホワイトボードと付箋は、アイデア出しやまとめに役立ちます
- 全体報告に向けた報告資料（パワポ）のまとめ
- ※Moodleコースに報告資料のフォーマットを掲載済み
- 【活動報告と全体での質疑応答】(14:40~15:40の60分)
- 各グループからの活動報告（約5,6分×8ブース）
- ※教職員と学生が協力して報告してもらってもOK
- 全体でのディスカッション

各グループに分かれての活動時間

13:45~14:50 (65分)
(予定)

各グループからの活動報告 全体でのディスカッション

14:40~15:50 (70分)

統括コメント

三重大大学教育担当理事 鶴原 清志
学生総合支援機構 機構長

閉会の挨拶

教育学部 教授 富樫 健二
学生総合支援機構 副機構長

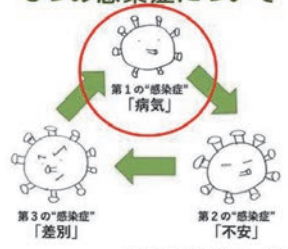
多くの方にご参加いただき、
誠にありがとうございました。

●各ブースで作成していただいた活動報告資料は、
Moodleコースの「活動報告資料の提出用フォーム」に
アップロードしていただくことができます。

●Moodleコースの最後に掲載されている
「意見・コメント投稿フォーム(終了後)」に、
本サミットへのご意見や感想をお寄せください。



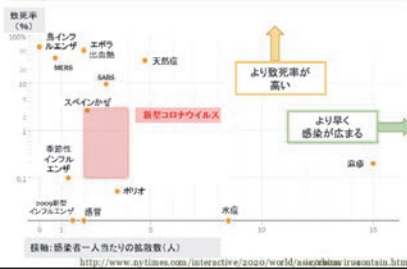
○ 講演資料

2023年9月28日 三重大学・学生支援サミット2023 ポストコロナ期のメンタルヘルスについて  三重大学保健管理センター 谷井 久志	内容 1. 新型コロナウイルス感染症とは 2. メンタルヘルスにもたらされる問題 3. コロナ禍の心のケア 4. ポストコロナに向けて 5. まとめ
人類と感染症の関わりの歴史は古く、人類の誕生とともに感染症との闘いの歴史がありました。	菊池寛「マスク」改造 1920年7月号 『毎日の新聞に出る死亡者数の増減に依つて、自分は一喜一憂した。日毎に増して行つて、三千三百三十七人まで行くと、それを最高の記録として、僅かばかりではあつたが、段々減少し始めたときには、自分はホツとした。が、自重した。二月一杯は殆んど、外出しなかつた。友人はもとより、妻までが、自分の臆病を笑つた。自分も少し神経衰弱の恐怖症(ヒポコンデリア)に罹つて居ると思つた。が、感冒に対する自分の恐怖は、何うにもまぎらすことの出来ない実感だつた。』 スペインかぜによる日本の死者数は40万人 (新型コロナによる日本の死者数の最多は510人/日)
寺田寅彦 随筆「小爆発二件」1935年 『ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしいことだと思つた。○○の○○○○に対するのも△△の△△△△△に対するのでも、やはりそんな気がする。』 … 正しく怖がることの難しさ	3つの感染症について  日本赤十字社サポートガイドより

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の原因

SARS-CoV-2
Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2
重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2

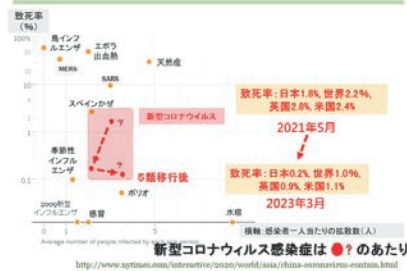
新型コロナウイルス感染症の位置づけ



新型コロナウイルス感染症の位置づけ

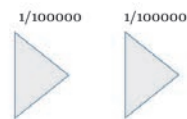


新型コロナウイルス感染症の位置づけ



ウイルスは見える限界の約1/1000

名古屋テレビ塔 ゴマ粒 ウイルス



※著作権上の配慮から、画像は削除しております。

COVID-19によって亡くなった方

2023年3月9日現在

世界: 約688万人、米国: 1,148,090人

日本: 72,922人

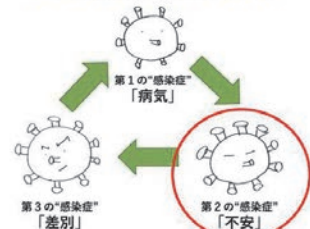
参考: 第二次世界大戦における米国の死者: 約29万人、
 南北戦争の死者数は約50万人、
 ベトナム戦争での民間人の犠牲者: 約200万人

<https://coronavirus.jhu.edu/map.html>
 ジョーンズ・ホプキンス大学による集計 (2023-3-10迄)

内容

1. 新型コロナウイルス感染症とは
2. メンタルヘルスにもたらされる問題
3. コロナ禍の心のケア
4. ポストコロナに向けて
5. まとめ

3つの感染症について



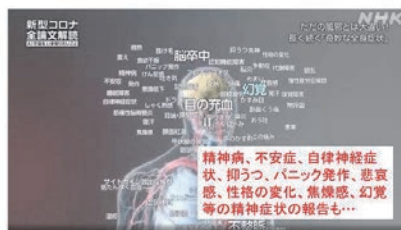
日本赤十字社サポートガイドより

新型コロナウイルスに関する様々な言葉

コロナ禍、コロナ不況、コロナ自粛
 コロナ疲れ、コロナストレス
 コロナうつ、コロナ不安
 コロナに負けない、コロナに勝つ
 ポストコロナ、ウイズコロナ

新型コロナウイルスによる不安と孤独

※著作権上の配慮から、画像は削除しております。



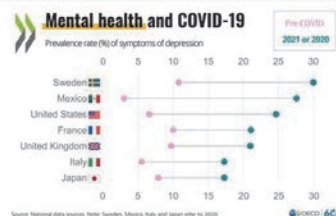
NHKスペシャル 2020年11月8日 新型コロナ 全論文解説
 ~AIで巡るいま知りたいこと~

新型コロナウイルス感染後の精神神経症状: Brain Fog (脳に霧がかかったような状況)



Why can COVID-19 cause brain fog?
<https://news.illu.edu/health-wellness/why-can-covid-19-cause-brain-fog>

COVID-19でうつ症状が増加 (OECD)



図表で見る医療2021年版(OECD Health at a Glance 2021)

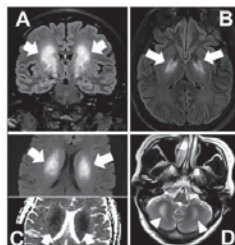
◆コロナ感染を恐れすぎた例

スペインからの症例報告:
 56歳女性で、4週間の経過で不眠、認知機能低下、パーキンソン症状を呈した。頭部MRIでは淡蒼球、深部白質、小脳半球に両側性の異常信号を認めた。家族(息子)からの情報で、COVID-19感染を恐れるあまり、マスクを1日3回アルコール消毒していたことがわかった。当初はイソプロピルアルコールを使用していたが、メタノールに切り替えてしまったことが判明した。その後、徐々に改善したが、4ヶ月後の現在も重度の障害が残っている。診断は慢性メタノール中毒であった。

Eur J Med. 18 Feb 2021 (doi.org/10.1111/ene.14779)

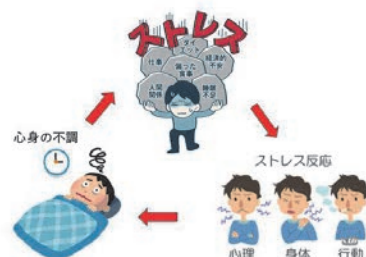
コロナ恐怖症による脳障害

MRI 冠状断FLAIR像 (A)、水平断 T2 (B 及び D) 拡散 T2 像 (C) T2-FLAIR高信号が淡蒼球、深部白質、小脳半球に両側性の異常信号を認めた。中毒性脳症の画像と一致している。



Eur J Med. 18 Feb 2021 (doi.org/10.1111/ene.14779)

ストレスによる心身の不調と悪循環



ストレスに関連してメンタル不調
になった際の状況を表す表現とし
て3A症候群があります。

3A症候群とは

Absenteeism: 欠席
Alcohol : アルコール
Accident : 事故

3A症候群

Absenteeism: 遅刻・欠勤・怠勤



3A症候群

Alcohol : 依存



※著作権上の配慮から、画像は削除しております。

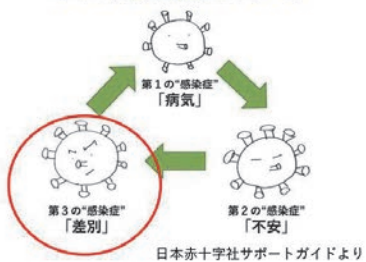
3A症候群

Accident : 事故



小さな判断ミス～大きな事故まで様々
仕事や勉強上のミス、交通事故、
トラブル、感染予防の不徹底など

3つの感染症について



行動免疫と呼ばれる心理的システム

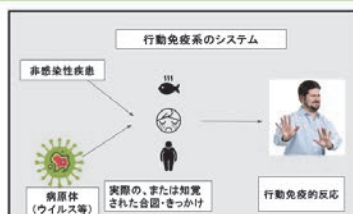
人は、自分を守るために、感染のリスクを感知すると
嫌悪感を生じ、その対象から回避しようとする
行動としての免疫がある。

行動免疫によって感染リスクから距離をとり、
実際に感染したら、身体の免疫システムで自分を守る
というものである。

これが感染症の疑いのある人を忌み嫌う1つの要因である
という仮説がある。

Schaller M. The behavioural immune system and the psychology of human
sociality. *Philos Trans R Soc Lond B Biol Sci*. 2011 Dec 12;366(1583):3419-26.
Schaller M, Murray DR, Bangerter A. Implications of the behavioural immune
system for social behaviour and human health in the modern world. *Philos Trans
R Soc Lond B Biol Sci*. 2015 May 26;370(1669):20140105

行動免疫とCOVID-19感染への脅威の認識

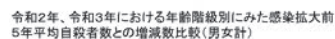


Makhanova A, Shepherd MA. Behavioral immune system linked to responses to
the threat of COVID-19. *Pers Individ Dif*. 2020 Dec 1;167:110221.

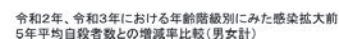
コロナ禍がメンタルヘルスにもた
らす問題

▶ 自殺について

▶ 孤独について



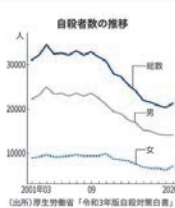
資料：警察庁「自殺統計」より自殺対策推進センター作成



資料：警察庁「自殺統計」より自殺対策推進センター作成

働く女性の自殺が増加 21年版白書 コロナ禍も影響
(日本経済新聞 2021年11月2日)

職についている女性の20年の自殺者数は1698人で、19年までの5年間の平均と比べて3割近く増加した。新型コロナウイルスの感染拡大で雇用環境が悪化したことが影響したとみられる。20年は児童・生徒の自殺者数が499人で過去最多となった。



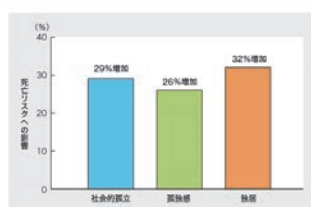
「我が国における社会的孤立」

「家族以外の人」と交流のない人の割合（国際比較）

○ 日本では「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合が16.3%あり、OECDの加盟国20か国中最も高い割合となっている。



つなかりの少なさが死亡に及ぼす影響（メタ解析）



(Holt-Lunstad J, et al. *Perspect Psychol Sci* 2015;10: 227-237)

内容

1. 新型コロナウイルス感染症とは
2. メンタルヘルスにもたらされる問題
3. コロナ禍の心のケア
4. ポストコロナに向けて
5. まとめ

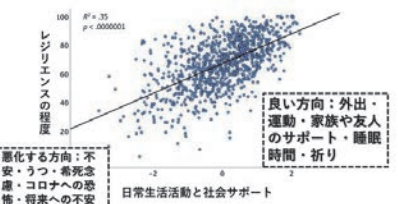
コロナ対策の「3密」は3つのX



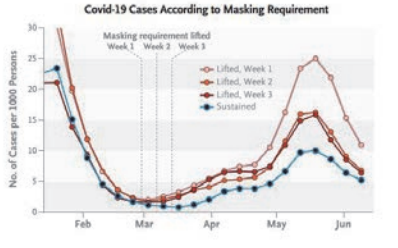
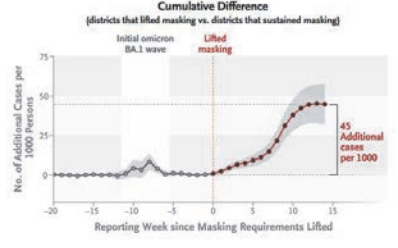
「3密」は英語で3C：Avoid the Three Cs

1. **Closed spaces** with poor ventilation.
2. **Crowded places** with many people nearby.
3. **Close-contact settings** such as close-range conversations.



メンタルヘルスでの『コロナ対策の3C』 PLOS ONE July 10, 2020 RESEARCH ARTICLE Mentality and behavior in COVID-19 emergency status in Japan: Influence of personality, morality and ideology Kun Qian^{1,2*}, Tetsukazu Yahara^{2,3} 正しく恐れて、適切な行動に導くために コロナ対策の3C: “Calm (冷静に)、Careful (注意しながら)、Confident (自信をもって)” https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/472	メンタルヘルスのためのコロナ対策の3C 1. Calm 冷静に 2. Careful 注意しながら 3. Confident 自信をもって
コロナ禍でのレジリエンス（回復力）と日常生活活動・社会サポートとの関係  Killgore WDS et al, Psychiatry Res. 2020 Sep;291:113216. 第18回日本不安症学会（2022年5月21日）・会長講演	ポストコロナでは心の健康が大切 脳を活性化する要素 「会話」「食事」「運動」「睡眠」 前二者は人との交わりに関係
心的外傷後成長（Post-Traumatic Growth）について 辛いことを経験した人が色々ともがいたり大変な思いをしたりするなかで、人間として成長すること 心的外傷後成長の内容 1. 人間関係における成長 2. 新たな可能性が見出されるタイプの成長 3. 「人間としての強さ」の自覚を持つようになる成長 4. 感謝の気持ちを強く持てるようになる成長 5. 人間を超えた力のようなものに、畏敬の念を抱く成長	内容 1. 新型コロナウイルス感染症とは 2. メンタルヘルスにもたらされる問題 3. コロナ禍の心のケア 4. ポストコロナに向けて 5. まとめ
ポストコロナで少し気になる言葉として、『ソーシャル二日酔い』があります。 ※著作権上の配慮から、画像は削除しております。	ソーシャル二日酔い 久しぶりに人が集まる会に参加したり、懐かしい人と会って、会話を続けたりすることに肉体的および感情的に疲れを感じる  2022年4月4日日本経済新聞 様々な制限がいち早く解除された欧米では、Social Hangover（ソーシャル二日酔い）が社会問題として認識されている。

ソーシャル二日酔いへの対策 二日酔い（飲酒）の対策 ・飲みすぎないこと ・吸収が良い物を飲食 ・安静にする ・睡眠をとる 2022年4月4日日本経済新聞 ソーシャル二日酔いの対策 ・無理せず、段階を踏んで会に参加する ・心が消化できる無理のない時間設定をする ・散歩をしたり、音楽を聴いたりする ・安眠をする	ところで、2023年3月13日をもってマスク着用の推奨がなくなり、個人の判断になりました。 ※著作権上の配慮から、画像は削除しております。
感染症に対峙する上で… 守る 感染予防 マスク・手洗い・ゼロ密を目指す 攻める 感染症対策 ワクチン・治療薬 社会活動の回復 守ることと攻めることのバランスが大切	
旧：感染対策の呼び掛け（手洗い、咳エチケット、マスク着用） 	第116回（令和5年2月8日） 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 「マスク着用の有効性に関する科学的知見」より 諸外国では、多くの場合マスク着用は強制力をともなう mask mandate（着用義務）としてマスク着用が対策の一部として実施されてきた（日本での呼び掛けとは大きく異なる扱いであった）。マスク着用に関する文化的背景が日本と大きく異なる欧州では、流行状況が悪化した場合にのみマスク着用を呼び掛けることがある。例えば、ドイツでは欧州で最後まで継続された長距離の交通機関のマスク着用義務を2023年2月に解除することを決めたが、保健相は自発的にマスクを着用することを推奨することを呼び掛けている[13]。 13. DEUTSCH LERNEN. COVID: Germany ends obligatory masks for public transit. 2 February 2023. https://www.dw.com/en/covid-germany-ends-obligatory-masks-for-public-transit/a-64587973
 カンザス州は、(2020年)7月3日よりマスクの着用義務を実施	『2022年4月1日よりマスクの着用義務は解除する』というアナウンス 

 Covid-19 Cases According to Masking Requirement Masking requirement lifted Week 1 Week 2 Week 3 — Lifted, Week 1 — Lifted, Week 2 — Lifted, Week 3 — Sustained No. of Cases per 1000 Persons Feb Mar Apr May Jun Geoghegan T.L., et al. Lifting Universal Masking in Schools - Covid-19 Incidence among Students and Staff. N Engl J Med. 2022;386(23).	 Cumulative Difference (districts that lifted masking vs. districts that sustained masking) Initial omicron BA.1 wave Lifted masking No. of Additional Cases per 1000 Persons Reporting Week since Masking Requirements Lifted 45 Additional cases per 1000 Geoghegan T.L., et al. Lifting Universal Masking in Schools - Covid-19 Incidence among Students and Staff. N Engl J Med. 2022;386(23).
第116回(令和5年2月8日) 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 「マスク着用の有効性に関する科学的知見」より 『カナダでは、マスクの着用は個人の選択であり他人の選択を理解し敬意を払うようにとしているが、屋内の公共スペースではマスクの着用を推奨している。また、重症化リスクを有する人やその周囲の人、集団生活をしている場所に訪問する場合、混雑や換気の悪い場所では、マスク着用が特に重要としている。さらに、長期的には、アウトブレイクにある場合(流行がある場合)、新たに懸念される変異ウイルスにある場合や地域の流行レベルが高い場合には、市民のマスク着用に強く頼る必要も生じるとしている。』 Government of Canada. COVID-19 mask use: Advice for community settings 今回の日本のマスク推奨緩和はカナダに近い対応	皆がマスクを外している時、自分は着けている、どうしよう…と判断に迷うことはあるかも知れません。でも…… ※著作権上の配慮から、画像は削除しております。 金子みずゝ 「私と小鳥と鈴と」 中日新聞 2015年11月29日
内容 1. 新型コロナウイルス感染症とは 2. メンタルヘルスにもたらされる問題 3. コロナ禍の心のケア 4. ポストコロナに向けて 5. まとめ	まとめにかえて
新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス 心理学でスモールワールド現象という言葉があります。我々人類の誰もが、その間に6人までを仲介すると繋がっているとする考え方が、感染症の伝播を解説する際にこの概念が用いられることがあります。 ただ、そのような人と人との繋がりは、我々がこのウィルスと対峙し、ポストコロナを生きていく力を生むと思います。	ポストコロナを生きるために 『ベスト(カミュ作)』の主人公リウーの言葉 「今度のことはヒロイズムという問題じゃないんです。これは誠実さの問題なんです。こんな考え方は笑われるかも知れませんが、しかしベストと戦う唯一の方法は誠実さということです」 …… (誠実さとは)「自分の職務を果たすことだと心得ています。」 『ベスト』カミュ作 宮崎巖雄訳 新潮文庫 P.245 

5. 各グループの活動報告

○ グループ①: 人文学部グループ

提案：三重大生専用の掲示板（Moodle などを使って）

学生支援サイト2023 2023.9.28 (木) 13:00~16:00 グループ① 活動報告資料	トークテーマ【三重大生のニーズ】 ・コロナ等の症状や、感染対策に自信がない不安 ・気軽に話せる人が欲しい ・自然に出会える場所・堅苦しくなく話せる場所 ・コロナで講義を休んだ時に、同じ講義を取っている友人がいないことによる不安 →でも直接友達をつくるのが苦手な人も…
トークテーマ【三重大生のニーズに応える企画アイデア】 ・三重大生専用掲示板 趣味や、興味がある話題、同じ講義についての話題など、自分たちで部屋をつくって気軽に話せる話題はなんでもOK(テレビの同時視聴でもOK) ・一番の特徴 掲示板から直接三重大大学の部屋を借りることが出来る →仲良くなった人と直接会える→人間関係の深まり	トークテーマ【企画アイデアのアピールポイント】 ・オンラインだから、場所や時間に限らず人間関係を築ける。 ・PCやスマホから参加できる ・自発的に参加できる。 ・匿名性があり人間関係を作るハードルが低くなる。 ・三重大生だけが参加できるので安全性が高い ・孤独感が薄れる 

○ グループ②: 教育学部 I グループ

提案：フリースペースの設置

学生支援サイト2023 2023.9.28 (木) 13:00~16:00 グループ② 活動報告資料	極上のフリースペース 【トークテーマ】 おすすめスポット、サークル、授業、就活、教保等 【特徴】 一人でも行ける、先輩との関わり、時間いつでもok! リアルタイムで人数が分かる、トークテーマはくじ引き 【おすすめポイント】 お菓子・コーヒー無料、ボードゲームあり、 飲食OK、8人乗ったら食堂バスや旅行券 【地域と連携】 会社と協力、インスタなどで発信 
--	--

○ グループ③:教育学部Ⅱグループ

提案:「Miet ボックス」の設置

Miet ボックスを使った交流の機会の提供

学生実習サイト2023
2023.9.28 (木) 13:00~16:00

③教育Ⅱ グループ 活動報告資料

【三重大生のニーズ】

- ・人とのつながり、出会いが少ない
- ・得られる情報が少なく、限定的(対面でこそ得られる情報がある)
- ・授業に対するやる気が起らない→オンラインでの怠慢を引きずる
- ・外出意欲の低下
- ・バイトができるのか?→金銭的な不安
- ・対面だからこそ、が欲しい

【三重大生のニーズに応える企画アイデア】

☆自分を話そう ←

- ・趣味や好きな事を共有できるBOXの作成

☆旅行

- ・近場の県外で観光やお泊り、ハイキング、バスツアーなど



【企画アイデアのアピールポイント】

☆自分を話そう「Mietボックス」

- ・趣味などに関するBOXを設置、自分の名刺を入れる
- 同じ趣味を持つ者同士が、対面で会うことができる場所
- や時間を、こちら側で設定する: **機会の設定、提供**



【企画アイデアのアピールポイント】

☆自分を話そう「Mietボックス」

—POINT—

- ・出会うmeetとMIEを掛けたオリジナル性☆ ↑こんな紙を用意
- ・自己表現の場、まだ出会っていない人と趣味で繋がることができる
- ・POPな感じにすることで「出会い系」という認識を阻止する(したい)
- ・引き出し型の箱にすれば参加しやすい!
- ・経済面の心配はほとんど無し!



名前:
 学籍メール:
 備考:

○ グループ④:医学部グループ

提案：学部・学年間での交流会の開催

学生支援サミット2023 2023.9.28 (木) 13:00~16:00 グループ④ 活動報告資料	トークテーマ【三重大学生のニーズ】 <困っていること、困っていたこと> ・実習期間中及び終了1週間の体調行動チェック表の提出がある ・高校時代オープンキャンパスに参加できなかった ・部活の大会がなくなった ・奇数偶数教室によって友好関係に制限をかけられた ・オンライン授業で周りの状況が分かりにくかった ・いろいろな人と関わることでできなくなった 友達の輪が広がらない <求めていること> ・なんでも相談室を利用することで安心できた →気軽に相談できる場所が必要 ・先輩後輩や他学部との交流の機会
トークテーマ【三重大学生のニーズに応える企画アイデア】 ○他学部、他学年との交流会 希望では親と親の関係希望がまだに残っている zoomでの開催はあったが、発言がしにくく話が伝わりにくかった 次の開催はなくその場限りの交流となってしまう 学生支援サミットのような場所であっても同学部で固まっている 開催自体を知らないことが多い →他学部とグループを組んでいき、開催していることを周知していく 授業開始5分前、開催の案内を口頭で伝える <具体案> ・遠征わり、月替わりなどの定時開催にする ・レクリエーション (BBDQ、いちご狩り) など参加しやすく楽しい企画を学生主体で計画する	トークテーマ【企画アイデアのアピールポイント】 ・対面の開催によってその場限りの関係性ではなく、次につながる ・授業中に知らせることによって確実にみんなに知ってもらえる ・学生主体であることで気軽に参加できる ・学生主体によって意見が伝えやすく相談しやすい場となる ・コミュニケーション能力の構築につながる ・幅広い教養の取得につながる

○ グループ⑤:工学部グループ

提案：スポーツや紙飛行機・ロボット制作、Eスポーツでの交流会

学生支援サミット2023 2023.9.28 (木) 13:00~16:00 グループ⑤ 活動報告資料	トークテーマ【三重大学生のニーズ】 ・交流の機会が少ない (研究室以外) ・学習環境の変化 (オンラインで集中力が続かない) ・教師とのコミュニケーションがない ・教師への質問の質が違う (教師に求めているような質問、どうしてよいか分からない、担任の先生しか頼れない) ・家にいる機会が多いと光熱費等高い、バイト何すればよいかわからない ・誰かと勉強したかった
トークテーマ【三重大学生のニーズに応える企画アイデア】 工学部内での交流 (金学より工学部内から) ・工学部学科対抗スポーツ大会 ・紙飛行機、ロボットなどを作り競う ・Eスポーツ大会 先生、学生がともに参加	トークテーマ【企画アイデアのアピールポイント】 ・無理やり場を作るよりモチベーションを持ちやすい ・研究室だけでなく研究室間、学科間の横のつながりができる ・先生と学生の縦のつながりができる

○ グループ⑥:生物資源学部グループ

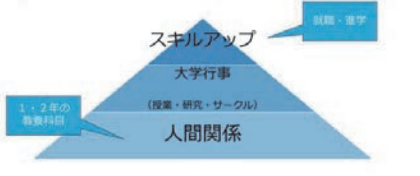
提案：全学部合同の「三重大学タイム」の創設



活動タイムを進化させよ
学部だけじゃあ、もったいない

学生支援サミット2023
2023.4.28(木)
13:00~16:00
グループ6

根底にあるのは「人間関係」



1・2年の
教養科目

でも実際は...

- 教養の段階から、学部を超えた「つながり」を作る
- 三重大は様々な「施設」を有している
- 縦・横だけでなく、地域連携型大学として「外部」とも連携する

コロナ禍で全て無くなった(オンライン化)
パソコンに向かって話し続ける日々。施設は真っ裸な同僚。

「人間関係」が皆無な時間を過ごしてきた...



大学を構築するイベントって...

- 授業・研究
- サークル活動
- 学生同士の交流
- スキルアップ
- 就職

- 【1年】学部を超えて「施設」を活用
- 【2年】運動会などのレクリエーション
- 【3年】交流・座談会
- 【4年】企業や後輩との交流

縦・横・そして大学を軸に結ぶ「つながり」を作るトリック

横のつながりを作る

- 昔には運動会があった
→研究室対抗のスポーツ大会(ボウリングなど)
- 情報共有(就活やインターンシップ等)が乏しい
→学科・学部を超えた座談会を実施する
- Oaとの交流
→内容に幅があるので、学部のみor学科のみの良さがある

縦のつながりを作る

- 生物資源学部は、2024年4月から学科が改定される(総合科学コースの新設)
- 幅広い視野を持つことができる? 広すぎて情報収集が大変?
- 先輩となる3・4年生が、新入りの1・2年生を手助けできるようなイベントを開催すべきか
- 「活動タイム」の有効活用

社会とのつながり

- 三重大と地域が連携したイベントを開催
(例) 企業見学ツアー
様々な種類の企業を訪問し、地域理解を深めるとともに、学科・学部間でコミュニケーションを構築する
- 三重大の豊富な施設を活用したイベント
→演習林、農場、練習船「勢水丸」 etc...

「南海トラフ地震」が起きたら



海上交通が寸断されたとき、船上交通が途切れることがあってもいい
総合大学ならではの協力体制

「三重大学タイム」の創設

生物資源学部には分からない「生物資源学活動タイム」を、全学部合同に拡大した「**三重大学タイム**」を提案

教育・人文・生物資源・工学・医学、それぞれの学科の特色を活かしたイベント・ツアーを「**三重大学生全員**」で享受

→報告会を通じて「あれは楽しかった」「私も参加してみたい」継続的な活動につなげる

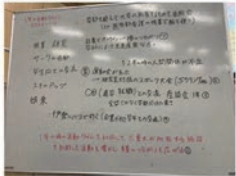
(例) おいせさんツアー

せっかく三重大の大学に通っているんだから、三重県のことをもっと知ろう

伊勢神宮の歴史、地元企業の訪問、「おかげ横丁」などの探索...

見て、歩いて、実際に学ぶ → 学部を超えたつながりが生まれる

(参考)ホワイトボード



○ グループ⑦:教育&医学部グループ

提案：なんでも質問できる窓口の設置

交流やつながりを作る（学内限定の）掲示板やMoodleの設置

グループ⑦ 活動報告資料

学生支援サミット2023
2023.9.28（木）13:00～16:00



トークテーマ【三重大生のニーズ】

- ・入学式、サークル等のイベント
- ・活動の制限
- ・同じ学部内での情報共有
- ・紙媒体と電子媒体の混在による手続きの複雑化
- ・他学部や他学科との交流

アイデア① なんでも質問できるブース窓口の設置

アピールポイント
解決の可否に関わらず、学生が感じている問題を大学側に認識してもらうことができるようになる。



アイデア② 呼びかけができる掲示板やフォーラム（Moodle等で）

アピールポイント
気軽に学生や教職員が集まったり、つながりを持ったりすることできる。大学生らしい生活ができるかも…?



○ グループ⑧:工学&生物資源学部グループ

提案：受け取る情報を個人でカスタマイズできる掲示板やメール配信システム

学生支援サイト2023 2023.9.28 (水) 13:00~16:00 グループ8 活動報告資料	【三重大生のニーズ】 ●サークルなどの勧誘で、SNSがメインになっている 対面からでも、SNSに誘導するものが多い 特定のSNSを能動的に見に行かないと情報が集められない 今の3年・4年はオンライン全盛期で、能動的にSNSを使って情報を集めていた - 対面が減って、今の学生はSNSで能動的に収集しないかも？ 結果と教人生の間でのギャップを埋める サークルを知る機会を減らす ●全学メールで、自身に不要なメールが来ている メールが多くて、大事なメールを見落とす
【三重大生のニーズに応える企画アイデア】 ●掲示板+メールマガジン形式で情報を送る 掲示板に情報をまとめつつ、メールマガジンで個人で選択する ・留学 ・就活 ・院入試 ・奨学金情報 + ・サークル・部活動情報 ・イベント情報 受け取るメールを個人でカスタマイズできる	【企画アイデアのアピールポイント】 ●情報の格差がなく、入学した時点ですべての人に選択の権利がある Twitterやってない… インスタやってない… ●情報を欲しい人に直接届けられる ●各自で情報の取捨選択・定期的な確認メール →取りこぼされる人を減らす

6. 資料

- 学生支援サミット 2023 ポスター
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事

サミットのテーマ・内容

ポストコロナ期のメンタルサポート ～三重大生が充実したキャンパスライフを送るには～

コロナ禍での様々な制限が解除されましたが、それは同時にこれまで馴染んできた生活をもう一度変えることになります。それにうまく適応できる人もいれば、戸惑いや困り感を抱えている人もおり、ポストコロナ期のメンタルヘルスが今注目されています。

そこで今回は、『ポストコロナ期のメンタルサポート』をテーマに取り上げ、三重大生が安心して充実した大学生活を送るための環境づくりや支援企画について、学生と教職員が一緒になって考える機会になるよう、サミットを開催します。

【冒頭の話提供】三重大学 保健管理センター 精神科医 谷井久志 先生
『ポストコロナ期におけるメンタルヘルス』（仮題）



三重大学 学生支援サミット2023

【日時】

2023年9月28日【木】
13:00～16:00

【会場】

地域イノベーション研究開発拠点3階
地域イノベーションホール【対面開催】

参加者募集！

参加をご希望される場合は、
右記のQRコード先の参加申込フォームからお申込みください。
※教員から参加依頼を受けた方は、
こちらでお申込いただく必要はございません。



お問い合わせ 三重大学 学生総合支援機構（担当：風間）



TEL 059-231-6262

MAIL junki.kazama@mie-u.ac.jp

主催：三重大学 学生総合支援機構・学生活動センター

学生支援サミット2023を開催しました

9月28日(木)、「学生支援サミット2023 ポストコロナ期におけるメンタルサポート～三重大生が充実したキャンパスライフを送るには～」を開催しました。

本サミットは、学生・教職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援機構主催で毎年開催されているイベントで、本年度は学生・教職員62名が参加しました。

冒頭、伊藤学長から「コロナ禍で辛い状況を過ごした皆さんをサポートするため、学生の皆さん自身が大学をどう創りたいか議論していただき、大学がその声を聴いて実現していきたい。学生と教職員が一体となって大学を創っていききたい。」と開会の挨拶がありました。



保健管理センター谷井教授の講演「ポストコロナ期のメンタルヘルスについて」の後、学生総合支援機構障害学生支援センターの風間惇希講師の進行のもと、学生と教職員が8つのグループに分かれ、ディスカッションを行いました。



その後、各グループの活動報告が行われ、三重大生が生き生きと充実した学生生活を送るためのアイデア（学部を越えた繋がりが生まれるイベントや情報収集・発信のプラットフォームなど）が多数発表されました。



発表後、鶴原教育担当理事から「今回皆さんが学部間の交流を望んでいることを認識したので、今後、地域共創プラザ等を活用して交流イベントを検討したい。」と総括がありました。最後に、学生総合支援機構副機構長の富樫教育（学生総合支援）担当副学長から「学生支援サミットの結果は学生支援事業に活かしているので、今回のアイデア等も精査して可能なものは実現していきたい。

皆さんにはこのような機会を通じて点と点を結んでいき面となっていく様に大きな広がりにつけてほしい。三重大のインフルエンサーの役割を担ってほしい。」と閉会の挨拶がありました。

今回も積極的なディスカッションが行われ、大変有意義なサミットとなりました。



編集：三重大学 学生総合支援機構・学生活動センター





三重大学学生総合支援機構
ホームページ

<http://www.mie-u.ac.jp/life/>

国立大学法人 三重大学
問い合わせ先／学生総合支援機構
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL:059-231-9679

三重大学life

click